第拾壹卷
第三號

要目

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

女子青年界第十一巻第三號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XI　　March,, 1914　　Number 3.

會　說

留るも往くも

河井道子

春は彌生、春着花見の仕度期節とて浮れて長閑な夢を見て居る婦人の多き中に在學中の諸姉妹には三月程眞面目な感想を喚起さしむる時期は御座いますまい。下級生は上級に、上級生は卒業にと凱旋門を通過ますまてには學年試驗の大戰爭を控て居ります亦目出度卒業の門を潜りし後に尙以前に勝る大戰爭に出陣せんか、或は平和の家庭に平人となるべきか我何を爲すべき乎、何れを選擇べき乎と判斷に苦しむ方や又我に此大望あるも周圍の反對を如何せん、我に堅忍不拔の精神あれども不遇の身を如何にせんと、煩悶疑問が心裡に往來さるゝ姉妹方も多い事てせう、或は又才智淺薄の同級生が東都の高等學府に入學するとか、又富貴の中に育ちし友の自由行動を視たり、又兩親兄弟の厚き庇護を受けて荒き風波の苦痛を知らざる順境者を視るにつけ自分はなどてかく不幸にや、折角年來の希望が叶ふた喜び間もなく失望させられたり、或は瘦た腕で家計を助けなくてはならぬのかと他人の幸福を羨望不滿に焦心さるゝ

方もないとは申されますまい。

扨て此等の難問題の解決は誰も完全に出來るものてはありませんが只眞の神様を信仰する者には自然と解決が出來て來ますこと丈は斷言致します。

エスキリストの幼年、青年時代の事は記事が御座いませんて誰しも殘念に存じます、其中十二歳の時の事が一寸知れて居ます丈て御座いますが大層私共の教訓になる事て御座います、それはエスの御育になりしナザレは風儀もよき處てはなく、良師善校のあるなく子供ながらにエスは前途を思はれ上京して良師の下に學び度と思はれたのてせう、丁度十二歳の時に機會が來たと思はれて兩親と共に大節筵の期にエルサレム都に上られ、周圍は所謂御祭騷の中に自分丈は學者の中にて宗教の問答をして居られました(路、二〇四十一參照)兩親は人込みにて見逃れたエスを三日の後に探しあてゝ終に又ナザレの田舍に歸られたのてあります、エスは都にて學者共より學ばれたらば將來家の爲、社界の爲、世界の爲に盡すべき責任を成就するに如何に都合がよいかど一寸は思召たかも知れません、然し御自身が田舍に引籠りて平々凡々たる職人の仕事をして肉體の父母兄弟に奉仕るのが第一の責任てあると認識されて御自身の教育を犧牲にされたと申して宜しいてせう、世界の大救主が三十歳迄片田舍に住居し下等な勞働者となりて人々に知られずに居れし事が救世の大事業に頓挫を來しましたか、人生の價値を下げましたか、決して然てはありますまい、此隱れし三十年が大事業の基礎となりしのみならず勞働の神聖たる事が世に知れ私共には好模範を垂れて、己を捨て奉仕する道を教へられ又己が意の通り都會てなくば或は彼の地位てなくばなどと云ふ事なく『神よ何處なりとも御意に任せて我を送り何にても喜びてなす事を得しめ給へ』と祈る精神を鼓吹して下さいましたのてす、此十二歳のエスの御覺悟が常にエス主にあらはれ、神と人とに奉仕され終にゲッセマネの祈ともなり十字架ともなつた次第て御座います、私の一友人から左

の如き書面が參り實に感激致しました彼女は確にキリストの精神を宿した者て御座います。

『私は四月からは上京と決して居りましたが其は全く私が我儘てしたのみならず利己主義てした自分の幸福をのみ省みて居ました、私はもう一年間當地に止まる事に決心したのてす、自分ても勿論當地に止まる方がよいといふ事は知つて居ました然し信仰薄き私には自分の慾に打勝つ事が出來なかつたのてせう色々の方面から考へて上京と思ひました處が其間中と申すものは自分が上京と決心した後迄も心安からず實に苦しみました、然るに某友人の親切なる忠告と教示の中に『神の御意を知つたなら何の道ても其道を忠實にやれ』云々との句が私の胸の奥底て響きました其の夕方學校から歸り一人机に向ひ靜かに考へんとして目の前に先生や友人家族の姿あり〱と見え色々の想像をし到底もいくら試みても靜に考へる事が出來ません、其苦しさ自分乍ら何故自分はこんなに信仰薄き者てあらうと恐しくなりまして到底も祈も何も出來ぬので外に出てしまひました、雪は降つて居ますが校園に出て行きその中に雪が氷の如く堅くなりし上に立つて居ました、それから又祈をしやうとしましたが上京する方がよいといふ方へ計り好い加減の理屈がついて到底も〱駄目てしたから讃美歌を一人て唱ひ涙は止度もなく出て來ますが出來る丈世といふものから離れ樣と思ひ一心に唱ひましたが又もその歌を昔先生等と一緒に唱ひし頃が思はれたりして到底も駄目てすがやゝ靜まりましたので又唱ひ續けて居ました此時あゝ誰れか一緒に心から唱つて吳れる人がないかしらと思ひましたそれから室に歸り心靜に考へました云々。

然れば私共は神に任せて無理な希望を起さず御意のある處に於て働かうてはありませんか、兄弟の爲に自分は臺所にのみ立たねばならぬ身となるやら、

父母の爲に學校を退く事になるとも常に『我によからざる事なし』と讃美しつゝ其職を神聖化させ度ものて御座います。

又順境の諸姉は決して自分の幸福を己がものと思はずに神の惠と感謝しなくてはなりません、多く與へられしものは多く他に與ふるの責任を忘れず、他の人が受け得ざる高等教育を受け、或は兩親兄弟より思ひの儘の補助を受けて、不自由なき身となり居られますならば逆境の方々に同情を寄せると同時に又謙遜の態度をとる事が必要て『汝をして人に異ならしむる者は誰ぞ、汝は何の受領ざる物を有か、若しこれを受領は何を受領ざる如く誇や』とパウロの警告を記臆して必らず高慢不遜にならて愈々人々に奉仕するの念を盛にならしめ給ふを願ひます。

爰に謙遜の意を誤らぬ事が大切てあります、假令ば數人の友人が某所かに一所に行く事となり何を着て行きませうと相談の際餘り目立たり華美に見えるのは惡いから一つ木綿なり瓦斯織て新調しませうなどと相談が纏まつたとしませう、扨て其際自分は如何にすべき、木綿物にても今新に求める金はなし、持て居るものて間に合さうなものは母なり姉なりに貰ひし一寸した絹布なり、是を着る時は餘り奢侈ると思はれるかもしれぬ、其がいや故無理に借金しても綿服を調へたとしたらば此は綿服をつけて却つて驕慢になつたのてあります、古いおさがりの絹着をつけた方が眞個の謙遜なのてあります、態々謙遜だ〳〵と思ふて居る人は此上ない高慢な人になる事を忘れない樣に願ひます、凡てあるものを以て足れりとせよ、われ貧賤に居るの道を知りまた富厚に居るの道を知ると使徒が申した樣に私共もキリストの手本に習ひて凡ての事に於て熟練したいもので御座います。

歐洲の宗敎

東京立敎大學校長　元田作之進

十五億の人が此地球の表面に住んで居る、而して其中歐羅巴の人口が四億である、この內クリスト敎信者が幾人あるかは趣味ある問題である、又信者の信仰の傾向は如何、天主敎の信者はどうであるか、又新敎は如何、新敎と云つても幾派もあるが、何處に何派が强いかなどの事も進んで考へるのも必要がある、又同時に考へ度い事は、歐羅巴の信者は本國に於て盛んに働いて居るのみならず、外に向つて如何に活動して居るか、傳道會社が幾何あるか、幾何の人が外國に傳道して居るか、又牧師と僧侶は如何なる割合なるか、是等の事を數字の上より考へて見たいのである、數字は普通の人には趣味がないかも知れないが少しでも學問をした人には數に興味を持つべきの習慣を養ふべきである、今日は凡ての事が數より考へられるのである、心理學も經濟學も數より考へる樣になつて居る、宗敎も亦數の上より種々の觀察を下さるゝのである。

凡ての統計の中に宗敎の統計程區々なものはない從ひて基督敎徒の數にも大變な差異を生じ、其差も一萬や二萬でない、或人の如きは一億と云ひ他の人は二億と云ふ、一億の差は大した差である、其原因の一つとも見るべきは宗敎の統計の取り方にある、即ち或敎會は主人が一人受洗すれば一家族皆が數へられると云ふことも聞いて居る、或る敎會は受洗した子供も其數に加へ、或敎會ではコンフアーメーションを受けたもの計りを數へるのである。佛敎では尙甚だしく、佛敎徒の家に雇れた人は縱令信仰が皆無でも皆佛敎信者に加へるのである。

扨宗教統計を調べて見ると、先づ基督教(天主教、ギリシャ教、新教の總括)の信者が世界に何れ丈あるか、統計學者によつて異つて居るが、四億九千三百萬人、五億五千萬八、五億六千萬人の三つに分れて居る、其差は大變なものである、ユダヤ教信者が約一千萬人、印度教信者が約二億、佛教信者が約四億乃至五億、マホメット教徒が二億餘りてある、是を百分算にすれば、世界の人口十五億の內に於て、

キリスト教信者	三、五五
マホメット教信者	一、四〇
無神教者	五、〇〇

と云ふことになる、不思議な事は西洋に起つた大きな宗教は一つも無い、皆亞細亞洲に起つて居る、佛教は印度てある、ヒンズー教も亦同じ、ゾロアスタの宗教はペルシャてある、マホメット教はアラビヤ基督教はユダヤてあつて西洋てはない、此等は皆東洋の宗教てある、第一聖書を見ても東洋の習慣が澤山ある、依つて西洋人よりも日本人の方がよく解る處もある、例へばバプテスマのヨハネが靴の紐をとくにも足らぬと云つた事は西洋人には解らない、又最後の主の晩餐の時足を洗ひ給ふたといふ事も同樣てある、日本ては我々が旅舍に泊れば下女が來て洗ふ事がある、斯く凡ての宗教は東洋に起りしにも拘らず基督教は左廻りをなし佛教は右廻りをなした、基督教は諸國の國民性や風俗を經由して來たので種々の色が着いて來た、日本ては外國の客の如く思れるのであるが、若し是が右廻りをして來たら、其形式も亦餘程現在のものと異つて居たかも知れぬのである、精神は何方を廻つて來ても變化はない、兎に角基督は西洋人にとられたのてある、而して西洋が基督教國となつた、今日本は是を取返さんとして居るのてある、主なる國々て基督教がどう云ふ風に分配せられて居るかと云ふに、

大英洲	新教	最多數にて三千六百萬
	ローマ教	五百萬
	ユダヤ教	少許
佛國	新教	七十萬
	ローマ教	約三千八百萬

ユダヤ教　少許

獨逸　新教　三千五百萬
　　　ローマ教　二百萬
　　　ユダヤ教　多し

露西亞　新教　三百萬
　　　　ローマ教　一千三百萬
　　　　ギリシア教　多數

大體から云へば歐羅巴人をラテイン族、スラーブ族テユートン族の三つの種族に分つ事が出來る、即ちラテインは、イタリー、フランス、スペイン、ポルトガルの諸國民、スラーブはロシヤと少しの他國民。テユートンは英、北獨、ノールウエー、スキーデンの諸國民である。故に宗教の配布を云へばラテイン種族にはローマ教が多數である、スラーブ族はギリシヤ教が多數である。テユートン種族は新教が最も多數である。かく人種と宗教とは自ら關係して居るやうになつて居る。

次に宗教と政治は如何なる關係があるかと云ふとローマ教を國教としたる國が歐洲に於てはイタリースペイン、ポルトガル等である、デンマルク、ノルウエー、スキーデンはルーテル教が國教である、英國はエピスコパルが國教である、ロシヤはギリシヤ教を以て國教として居る。次に國教を有すと雖も全く信仰の自由を與ふる處もある即ち何を信じてもよい所もある、大英州が是である。次に法律にては自由を與へても實際は迫害を加へて居る處もある、ロシヤは然り、ギリシヤ教が國教である憲法上には信仰の自由を與へてあるが、他の宗教を信ずる事が實に六ケ敷い、即ちユダヤ人の如きはロシヤの國に入る事を免されない、又ロシヤの大學にユダヤ人を入れない、故にロシヤ生れのユダヤ人が本國の大學に入られずに獨逸の大學に入る、それが多數となつたので學校は實に迷惑を感じ、從て露國大學にはロシヤ人を入れないと云ふ問題が今起て居るのである。

歐羅巴の人口の大多數はクリスト教信者である、而してこれが又外に向つて如何に活動して居るかと云ふに實に驚くべきものがある、話の都合上歐米を合せて云ふのであるが、傳道會社が二百四十九、間

接に助けて居る會が二百又此傳道を助けて居る婦人會が八十ある、都合五百三十七の會社や團體があつて世界の傳道に務めて居るのである、四千萬圓の金が年々此傳道事業の爲に寄附せられ、外國傳道師が一萬五千人である、傳道地に於ける日曜學校の數が一萬五千其生徒七十七萬人を有して居る、傳道會社に關係あるミツシヨンスクールの數が二萬あつて其生徒は百萬以上てある、傳道地に於て其國の語に譯せられし聖書の種類四百二十七種ある。然して聖書の賣高年々五百萬圓に達するのてある。

かく歐羅巴は多くの信者を有し又外にも活動して居るが、扨其の實質を驗べて見ると悉く熱心の信者計りとは云へぬ、信者らしい事を爲ない人もある、日曜日に仕事を休みはすれども敎會に行かない人もある、名義上の信者が半分を占めて居る様に思はれる。日本ては如何かといふに實に可愛相なものてある、昨年の末十二月三十一日に日本の人口五千二百萬てあつたが之に對して基督敎信者は新敎即ち組合聖公會、日本基督、メソヂスト等合せて九萬四千五百六十九人。ローマ敎信者六萬六千六百八十九、正敎會信者三萬二千二百四十六、合計十八萬九千四百〇四てある。即ち千二百七十人に對して一人の信者てある、又五百七十七人に對して一人の新敎信者てある、而してこの基督敎の宣敎師が男女共一千三百四十六人日本牧師が千八百五十七人合計三千二百〇三人が基督敎の爲に働いて居る人てある。

日本に神道の敎師七萬八千百四十九人ある故に二十四人の神主と一人の基督敎の牧師とが相對する事になるのてある、佛敎の僧侶は十二萬一千五百五十三人ある、されば三十八人の僧侶に對するに一人の基督敎の牧師てある、この様な割合になるのてある日本人口の八割は田舍て、都市生活をする人は二割てある此八割の人口中九割五分は福音に接した事なき人のみて、其の五百分の一はまだキリスト敎を聞かない者てある、即ち一萬六千人の人口に一人の牧師てあつて、三萬九千人に一人の宣敎師の割合てあ

る。中々我々は呑氣にして居る事は出來ないのである大いに奮起しなければならない。
歐羅巴て信者が少なくなりつゝある樣に思はるれどもさうてなく、實際敎會に行く人が少なくなつたそれは以前敎會に行くのが習慣てあつたのが、今は習慣てない、たゞ眞に行き度い人のみが行くので、今日敎會に行く人は實質が健全てある、量に於ては減じたかも知れないが、質に於ては慥に善くなつたと思はれるのてある。

婦人の修養と其活動（つゞき）

神戸女學院敎頭　木村德藏

第二、修養後の活動　何程小なりとも生き物の體内には絶へず活動があります生物住居の此地球も自轉の外に一秒時十八哩半の速力て公轉して居ます此地球の屬する太陽系其ものさへ最近天文學者の說によれば一晝夜に五十萬哩づゝ走て居るさうてす又た地上の水てすがスタグナントウオーター即ち停滯し在る水は混濁して腐されますが流水即ちランニングウオーターは淸く爽かてす此流水に付更に一歩を進めて考へて見たいてすが河水の源流は山間の谿流て其水が最も淸くして其岩石の圭角に打ちあたることも烈しいてすが漸次下流となれば其流れが圓滿の代りに混濁を加へて居ります人の性格も之に類似して居る傾向があります。淸い性格の人程世の人々に衝突します、先達乃木將軍の傳を一寸見ましたら、初めの方に曾て將軍が臺灣に總督てあられた際に、彼の殖民地腐敗の官民が、將軍の餘りに淸廉潔白なのに

困つて、或る宴會の席上で一詩を作り大魚は清水に棲まず云々と書いて出したら將軍は『鰌や鯰に跋扈させてはならぬ』と答へられたとありましたが、私の如き臺灣に住んだ者から考へて、さもありしと思ひやられます。一體此大魚は清水に棲まずなどゝは支那から來た言葉でせうが虚でありまず、支那內地を天下とした時なら致方なし、苟くも海を知る者は其清き大海に山の如く大魚が棲むではありませんか故に之は私共の生物學上から其言葉や詩に反對を唱へます、又た私が先達當地に參ります途中の汽車內で、兒女の玩具で動いても他人の邪魔にならぬものがなからうかと考へた結果『獨樂』を求めてやりました。其獨樂は活動して其役目を果して兒女の慰めとなりましたが、其一つの獨樂の形狀は果物に類し其色も桃に作たものには二色以上の彩色がありましたが、之を廻はすと色が混同して一種の合色に見へました、又た他の獨樂の上には日本と米國と英國との三國旗がありましたて、之を廻はせば三國同盟の色を現はしましたが、同盟や合色は別としても、之は正さしく共同一致の活動が至極必要なることを敎へることと、私は思ひました。吾々は修養の後に取る可きは此活動であります、此活動によりて家庭に國家に又は社會に、天國の領分を擴張し得ることを確信します『あまねく世界をめぐりて福音を宣傳よ』と云ふことを實現する事となります。殊に共同一致で御座います。

第三、活動の行爲　皆樣が此所に在る植木の葉が綠色なることを御覽でせう、又た此綠色なる理由は葉綠粒と稱するものある故なることも御承知でせう、此葉綠粒に付て考へて申上げたいと思ふのです、此ものは植物の根から吸收する無機滋養分を葉に於て空氣中吾人に害ある炭酸瓦斯と共に日光を得て、初めて植物に必須なる有機滋養分と化せしむる役目を爲すもので御座います、之れ丈けの話ですが之を吾等信者に例をとれば、炭酸瓦斯は有害なる世の惡分子で、無機滋養分は修養で、日光は神で、其葉綠粒

を吾等信者と見るのです、此例を考へて見るに極めて趣味あるではありませんか。吾々修養し活動する者の行爲は宜しく葉緑粒となりて、社會の惡分子と戰て之を神の力により善化せねばならぬと思ひます家庭然り國家社會然りです。

第四、成功　活動は生物の特徴であります、自然界の活動して止まぬことは哲學者ベルグソンも唱道して居ります、吾人信者の活動は神人兩意滿足の自然であります故に活動は自然でありますので、其結果は望まずも宜しいことです、活動して成功云々とは欲しいことですが、其成功てふものも至つて考へものです、例へば楠正成は延元元年五月二十五日か七日かに此湊川に討死されましたが、其當時は戰死ですもの全くの失敗でした、然るに今日となりては如何ですか、三尺の兒童にも歌はるゝ忠臣てふ大成功でありませんか、此外に米國大統領リンコーンの最後即ち惡漢の狙擊に倒れたけれども、今日は米國の國父と呼ばれ世界より人道の戰死と歌はるゝと云ふ成功では御座いませんか、又た私が先年羅馬に滯在中、コロセオといふ紀元一二世紀頃大きい石で築き上げて、天井なして十萬人の坐席を有し、此所で初代の基督信者を飢えたる獅子などに食はして、喜んで見物したと云ふ恐ろしい古跡を見ました、之と場所を異にして同じ市にセント、ペーター寺院をも見ました、此寺院は何とも私の如き文學美術思想のないものには形容が出來ませんが、唯だ其内は二萬人を容るゝに足り、裝飾は諸種の大理石に金を以て何とも見るも眩ゆきばかりの有樣で、先づ世界第一の大きく且つ立派な大建物と云ふのみですが、此建築は百年餘を要して未だ全く出來上がつたのでないさうです、所が此寺院の在る場所は使徒ペーターが羅馬傳道の際、迫害の結果殺された場所なさうです、如何でせう之を前の隆盛を極めたコロセオの瓦解せる今日の古跡と對照して又たペーターの受けた殘酷なる最後と比べて成功てふことを考ふる時に、實に世に所謂成功とは永久の成功と全く相反して居りま

す、此事は吾等の主キリストの御生涯によりて何よりも明瞭に知られて居ます故に、吾等信者の活動は世の毀譽褒貶成功不成功に關係せずに猛進すべきは當然と思ひます。以上の例は凡て男性にとりましたが之に女性の見へざる所に潜勢力ありて、之を補導せしことは勿論で御座います、要之成功は問ふ可からず、活動は爲さずに居られぬ、修養は之が先驅たり、又た生涯爲すべきものなることを確信します。

第五、男女兩性に差ありや　修養上女性と男性とに差あるかと申せば、昨日か一昨日の御演說中に元來兩性には根本的に差ありと云はれたようてすが、私は生物學上根本的に差なしと申上げます、即ち吾人の初代なる卵の時は根本と申上げて宜しいと思ひますが、此時は兩性の差はありません、一個の卵は男女いづれにもなり得る體質を有して居るからてあります、さうてなくも先づ生れたときの赤兒の顔を見ても男か女か解りませんし、又た非常に年老ひた人の顔を見ると、之も亦たお婆さんかお爺さんか判斷のつかぬようて、言葉を換へて申せば人は最も幼なき時と最も老ひたる時とは、兩性の顔が甚だ似て居るといふことて御座います、又た男ても女ても偉らい人を見ますと、若し女て偉らい方は必ず男性の美點を具へ、男て偉らい人は女性の長所を持て居ります、即ち此點によりてキリストを見ますなら確かに兩性の有する凡ての美點と長所を具備して居られたから、吾等兩性から同樣に慕はれるので、簡言すれば修養上根本的に兩性の差なしと云ふので御座います、近くは先刻の廣岡さんても亦た此所に御在の御婦人中ても、男性の長所を持て居らるゝのても明かてせう。

第六、女子の特權　信仰上女性が男性に勝さる特權を持て居られると云ふことは、御互の能く知る如く主キリストが十字架上に死なれて埋られ三日目に甦られた際、第一に現はれ給しはマグダラのマリヤの前てはありませんか、實に此聖書記事は單に文學としたなら、古今を通觀した大文學てありますし、又

た事實としたなら誠に絶大の眞理と思ひます、即ち此記事を以て女子の信仰が遙かに眞摯にして、高く厚く深きことが男子に勝さると云ふことて御座います、實に此特權を有する諸姉が男子を超えて修養し活動し、世と國と家と個人との間に共同して傳道なさると云ふことは、最も尊いことなることは改めて申上ぐるまでも御座いません。此活動のために斯くも諸方よりの姉妹が集まられたことは、衷心御同情を申上げます次第て御座います。（完）

日本農業に及ぼせる地理的狀態（續）

エレン、センプル

日本人は魚肉を除いて、殆ど全く菜食主義てある日本群島は北緯二十五分から、五十度五十三分に展開しておるが爲植物は熱南豆南諸島の熱帶性から、北千島海峡の亙寒帶性の物まて悉皆供給することが出來て、そして其主食物は穀物野菜乃至果實てなりたつのてある。此菜食主義は偏頗か農業の發達を促して、殊に主たる米は、稻麥は黒潮から來た濕り氣を含んだ暖かい氣候によく適つて瑞々とよく生育する。稻ばかりてなく、豆類も實るが、之は用ゐて肥料の窒素分を補つてる。其耕作するのに、牛や馬は殆ど或る季節に使ふだけて、殆ど全く使はぬと云ふても可い。畑地の狹い段になつた所には、牛馬は寧ろ不便だ（一望千里の西洋の耕地には點々として黒い彼ら動物の形をみる筈だが）。

所が日本の土地面積の狹く、人間の勞力剩餘りあるの結果は、稻の培は、驚くべき勤勞の結果て收り穫けられる。其米の收穫は、永い月日の間、農夫は禾を鋤き、婦は餉を運んで、土をになふ耘る苅り藏めるまで扱くのもうつのもみな我等が手足を勞し筋肉を勞せしめぬと云ふことはない。日本の米は、早稻晩稻、其數種類は、大方四千種以上に上らう其内最も主なのが、ウルチ、オカボの二種類て、オカ

ポは僅に一、六パーセントしか全體の割合には當つてをらぬ。ウルチは乃ち水田に植ゑ、永い間斷へざる勞働により産せられる物で、其栽培の順序を云へば、まづ秋の收穫が終つて、苅り田の根を鋤き返し來春碎いて肥料を施し、水を引き、泥を混ぜ塊は手で揉み潰し、一度水に漬し、又水を入れ種子を下す夫は五月半六月の半に渉つて、この二月間は非常の注意を加へるさて一方は水田を境し畦ひ返し鋤かへし、六月の半になつて苗代田に濃い綠した早苗を植ゑる、移植了つて十三日ばかりたつと、第一回の田の草を取る。一番草二番草、三四から七回まで怠らず芸るか勿論器械があつてする譯ではなく、唯其五指を働らかしてやる。夫から天候の寒い暖い燥く濕る其時々に應じて稻田のまわりを怠りなく見廻つて水の溫度をちやうどよく加減する。若し夫れ烈日湯を沸す如きときは田草を苗から除き去ると同時に淸冽な水が新に注がれる。又冷氣膚を襲ふて田中の堀拔井戸の冷た過ぎる時、一旦水を溜池に蓄へ、植物の根を冷却させぬやうにする。かくして其收穫は、氣候によつて早いと遲いとの違ひはあるが大約九月十月のころに始る。以上は所謂濕地の田耕作を云ふたのであるが、今一つは乾燥いた畑のつくり方である。

之は旅行する外國人に著しく目をひかせる處の者があつて、高さ二千三百フヒートの丘陵、或は山腹の善く切り拓かれて甘藷の蔓をはわせ、蕎麥の花白く咲かせてゐること、違つた種類を一つ畑に一作置に作る。とり入れの季節の全然違ふ者を配するので其取合せはいろ／＼あるが、大體麥と一所に豆類を樹ゑられる。大豆大麥粟黍などは、桑圃の間に二重三重にも植ゑられ、桑の間に大麥をうゑ、又其中に菽を植ゑるは、例へば春の蠶を養つて、繭絲を收る時分になれば、桑の葉は悉皆苅り取られて、あとは麥の穗がすい／＼と暢る。麥が旣にからさほに打たれて、新らしい苞に詰められる時は、菽の實は漸く熟して仲秋の月の莚の珍羞となる。斯う云ふ風にし

て、大根も小豆も桑の間に植えれば、葱も里芋も植ゑる（原作者は主として上毛下野輕井澤あたりを多く觀られた者であらう）。

この間作りの方法は日本のやうな小規模な手實に耕作する處限りに行はるべき者で、若し米國のやうな大規模な潤い畑で、馬牛其外、苅入器械を用ゐたら、貝割り菜も、乾びた瓜の蔓も一齊に苅り除かれてしまふであらう。換言すれば耕すべき平地なく、人口多く、勞力剩りかへる處に於て行はれる必然の結果であつて、巧妙な經濟的のやり方と云はねばならぬ。

最後に云はうとするは養蠶である。是は日本の農業者に最も利益のある副業たるは云ふまでもなく。若し是がない物と假定したら、小資本の農家殊に小作人は到底立ち行かれはせまい。千九百〇八年（明治四十二年）の計算によると、養蠶業は日本の戸數の六分一に當つて居る。加之、この業は、老幼婦女まで手傳つて、春蠶は云ふまでもなく夏蠶もやる、秋蠶も飼ひ、二重三重に其利をしめて、恐るべき競爭者は決してない。何となれば、養蠶は大仕掛にすると失敗し、家庭的に小規模にすると成功する、不思議な調節があるからである。

又其養蠶の地理的分布を研究して、何處が一番盛大で、品質佳良な物を産出するかと云へば、極めて山村僻邑の、たとへば信州上州など、日本内部の山國で土地に硯确、交通は不便で、土民が、勞働に堪えうる處に發達する、かに思ふ。是は或は運搬の不便なため、少量で價格の高いのを選んだ結果ではないか。就中上毛は、其標式的模範的の者であつて、國の全體六十パーセント、漸く耕作ができるばかり他はみな火山の砂に被はれて土地が瘠せてるに係らず、絹絲の産額は夥しいものである。同じく一千九百〇八年に、養蠶に從事する人は四萬四千戸を數へ輸出額も日本全國絹絲輸出高の五分の一を占めて居ると云ふ盛況であつた。（以上農商務年報による）

私は千九百十一年七月に日光の湯本に避暑してた

時、金精峠（六千六百尺）を山越えに、渡瀬の上流をこえ、桐生に出たことがある。山となく野となく到る處綠の寥廓より外何等の人影も認ぬ唯だ獵夫の棲のこした假小家の粗朶を列べて建てたやうなのがたゞ一軒あつたばかり。其處を通つて海拔二千三百尺の東小川村についた。こゝから十八哩の下流、赤城の麓、沼田に到る間、片品川の岸に沿つて、稠密な村落が養蠶が其主な經濟的生活法を司配してをるらしい極く僅の水田の周圍は、くろ一面の桑畑、桑畑の海蒼い葉のそよぐ海である。人家の前を通れば各戸みな表障子を取拂つて、繭を拾ふ女小供もあり絲引車を徐に廻しつゝ沸煮する鍋の中から、絲を繰りだして居る老媼もあり。この光景は以太利でも目擊した覺もあり、又佛國の南にも無いことはないがさし當つて珍らしく感ぜられる。

上に述べた激しい耕作と狹い土地と增殖し行く人口とは土地の所有を少くさせた結果小農が多く一農家について所有の平均面積二エーカーに過ぎぬだから外國のやうに、大地主と小作人とのやうな貧富の懸隔が甚しくない、まづこれが日本に行はれる農業の概略であるて、日本國民は祖先以來かゝる方法で繰かへしやり來つたと云ふのは、其國土は全く其國民が各自の努力で耕し芸つた者であるからである。

はかり知られぬ神代の往古から、瑞穗の國の農夫は、其國民に貴重な生産物を與へ、今でも猶、日本に於る國家經濟の基となつてゐる。日本は今、世界の强國と云ふ最も美しい名と、そして重大な荷物を負ふてゐるが國家經濟的基礎となる者工業及び商業の、近代文明諸國の經濟物基礎をなしてゐる者は、日本にあつては極めて幼稚、ほんの端緒についたと云ふばかりで、やはり舊時の如く、又中世の日本の如く、農業を以て國の基としてゐるのは事實である。

夫であるのに日本帝國は、商工業家に、極めて輕い税を課し、農業者に偏に國家の大負擔をさせる。限られた土地をしか有たず、足械を嵌められて、非常な重荷を負ふて歩むがごとき農民は禍なるかな憐

れむべきものである。現在の土地の税は、田地の八パーセントを附加されて夫に諸種の地方税と合せて直接地租の割合が、十二・二パーセントに當る上に若し間接の税を加へたら驚くべき巨額の税率となるであらう。二エーカー半の土地を有ち、五六人の一家族の口を糊さねばならぬ小農民の疲勞困憊は、想ふに餘りある。其負擔の苦にたえず、今農民の廢業者は驚くべき割合で年々に增して行き、轉賣された小さな田地は、みな大地主に合併されるのである。土地に離れ、產業を捨てた日本の農民の將來は寒心すべきではなからうか。

朝に霜を踏んで出て、夕に星を戴いて歸り、惡しきを食ひ敝れたるを衣て、不平があつても訴へず、質朴で耐忍强くて、默々として其爲す處に忠實な、彼等は洵に愛國者の典型、尊敬すべき紀念碑である。（完）

新しき見聞（其二）

在米　加藤高子

本篇は一月號掲載の續きですがクリスマス來信を早く讀者各位に御覽に入れたいと存じまして其を前號誌上に掲げました爲に順序が後先になりました、何卒其の思召で……記者

ミルオキー着の翌日は月の第二の水曜日故委員會がありました。私も出席せよとの事で早速十時から自働車に乘つて參りました。まあ何ですか多勢色々な方に會ふて目が廻る樣でした。早速靑年會館内備付の昇降機で二階の部屋に參りました。十二三人計の出席でしたミス、メリルが司會なさるのでせう、其の傍に書記が居りまして聖書朗讀と熱心な祈禱で始まりましたが、秋に於ての始ての委員會で中々用があり、ごた〳〵して居りました。私も三番町に居つて委員會に參つた爲に其の樣子が大概解り眞個に有益でした。唯話か皆解りませんでした。集會の中途で下の部屋に行きましてミス、ミラーといふ新ら

しい幹事に會ひました。此の方は倶樂部擔任て皿や色々の食器を洗つて片付て居られました。夏休の後の事とて中々混雜てす。私も早速手傳つて皿を拭き又盥を詰たり致しました。中食は食堂て頂きましたが委員の一人がお拂ひ下さいました。午後は體操の擔任の方が散歩し乍ら送つて下さいました。ミシガン湖畔をずつと歩きまして涼しい風に吹かれ、美しい處を見て家に來まして荷物を解きましたがそれは〱疲れましたの。

其日、三人の新聞記者に會ひました。私を呼びまして一寸口早に紹介して何とか申しますから、名は勿論一向わからないて居りましたら、記者てすもの本當に本當に驚きました。第一の質問が「貴女は當地は御好きてすか」てすもの堪りません。半日居らない者に『御感想を何卒……』とか『御寫眞を御持參てすか』『日本ては婦人が大勢働きますか』などゝ二人の記者が度々勝手な問を出します。日本に居てさへ記者に逢ふた事のない私、本當に面喰ひました午後もう一人の記者に會ひました。『何故日本服を着ませんか、私は貴女の美しい日本服を見に來ました』とやら何とやら御世辭て閉口致しました。致し方なしに出來る丈話しました。第一の面喰ては新聞記者てした。ミス、メリルの御家にても新聞記者から毎晩の樣に電話て日本から婦人は未だ來ないかと問はれて隨分御困りてしたとか。其記者の中には自分が第一番に加藤に會ふて話したい、他の新聞に先きがけされると困る等と云ふて居ました者もあるさうて又一ケ月も待つて居つたとて來た記者もありました私は本當に〱びつくり致しましたの。困つた處を先生方に見て戴きたう御座いました。

總幹事が九月から來られて新しい方てす。ミス、メリルは朝九時から會に行かれて午後三時過頃迄も色々お働てす。私は喫驚しました。東京女子青年會長三宮夫人を思ひ出します。默つて良く盡してす。よく時間を會の爲に御費しなさいますのに感心致しました。夜は日本服を着ましたら面白がつて堪りま

せん、一番足元を注意されますのね。日本の事を一向御存じありませんから本當にお可笑い樣です。話せる樣になつたら充分話しませう。まだ〳〵色々あります。

九月十八日午後八時、只今ミス、メリルは脇で讀書せられてますしペキーと云ふ九才の赤毛の大きなよい犬が寢て居ます私は手紙書をして居ます。大變御凉し過ぎて洋服では居られませんから日本服を着て居ります。今日で九日目で御座いますが余程慣れて參りましたやうでも、まだ〳〵とても〳〵で御座います、皆樣の仰せられる事は大抵解りますが自分から話すのは困難で御座います。今日正午には靴下製造會社に參りました。工女は八千人から居りますさうです。或機械を使つて居る處に參りましたら、一人が八つのミシンを使用して居ります。見て居る内に品物が出來て來ます。初めの工女は二つ位しか機械を用ひませんさうです。一番よい工女は一週間十二弗位、低のても五六弗で九時間の勞働時間ださうです。工女等の或部の者は青年會の倶樂部に屬して居ますので、幹事の人が行つて個人個人に挨拶やら話やらして居りました。此の方の幹事は獨逸人ですが、よい親切な方です私は獨逸人は何ですか怖い者の樣に思ふて居りましたが、よく日本人と似て居る處がありますのね。そして割合に暖い氣持よい方です。今日は電車に乘せて戴いて、車掌に賴みまして、獨りて家に歸りまして皆樣と一緒に中食を致しました。大概は晝は青年會で中食を致しますのよ。

當市某商會に務めて居る日本男子がありましたが、去る日曜日に教會に參りましたら、牧師が私の目の前につれて來て紹介せられました。其の牧師さん曰く『よく時々訪問してよくお近づきになつて下さい』つて申されました。其は飛でも無い、私は日本に居つても余り男子を存知ませんから、それはそれは變に存じました。『ミス、メリルも御一緒ならば、會ふてもよいが別に私からは希望しません』と申しました。それからもう一つ話があります。某日本人

神學校卒業生とかが訪問して、午後四時から會の方へ參りまして、應接間で話しましたが、まあ二時間も居つて私は嫌になりました。ミス、メリルから食事なりといふ電話が來て、迎に來て下さいましたので助かりました。大急ぎでぬけて來ました。其の人は初對面ですのに、餘り慣れ〱しくて嫌になりました。日本に歸つて牧師をしやうか、如何でせうかなどと申して居ましたが、あんな人は眞平御免と思ひました。八年も居るそうですが餘り米國風と申ませうか、結局米國の皮相を眞似たと云ふ風ですの。ミルオキーに三四人の日本男子が居るそうで、私に支那料理にても御招きして會合したいとの事で、私の樣子を聞きました。先方ではアメリカ風ならばおかしくないと申ます。私は余りだと早々左樣な事は嫌ですから御斷りしました。いくら同國の男子でも私は嫌です。余り立派な品格の人で無い樣ですからミス、メリルも米國の婦人でもそんな事はしないと申されまして、私が斷つたのを喜ばれました。ミスメリルはよく解つて深く考へて下さいますから誠に嬉しう存じます。

船中での同室の日本婦人達から皆各々に禮狀が來ました。私は未だ一度も出しませんが、何とか有益になる樣な事を書いて返事を出しませうと考へてます。ロスアンヂレーに牧師をして居る人が新聞で見たとて親切な手紙を下さいました。其の方は七ヶ年前に村上に傳道に來た事がある人で、私は全く忘れて居りましたし、渡米せられたのも知りませんでした。

昨日の夕飯に日本の醬油を肉につけて食べる樣にと出して下さいました。一寸した事が有難く御座います。

昨夕、ミセス、ブラウンと云ふ方を御訪ね致しました。リウマチスで御歩けにならず、車のついた椅子に御かけでした。大變笑のある愉快に見えた方で驚きました。毎日家に居られて四十六種の鳥を見たと申されて居ます。青年會の委員で何でも色々な事

に興味を持つて居られますとか。立派な御樣子、眞に聖化された御態度はお貌つきを見てもよい教訓を與へられました。

九月卅日午後六時から青年會食堂で此の小さい私の爲めに、大きな然も暖い氣の滿ちた晩餐會を開いて下さいました。食堂にはテーブルに大小十五椅子計りに小さなプラットホームを中心に色々の工合に配置せられ、眞白なテーブル掛の上には花やベリーが散らしてありました。それから『歡迎加藤高子』と云ふ日本語の札が各々の場所にありました。(私が書きましたの、二百枚以上)扨て私はミス、メリルと一緒に食堂に入りました時は、何處を見てよいか分らぬ程、澤山の人が居て、少々胸がどきつきましたが直ぐよく成ました。皆さんの居らるゝ間を通つて、プラットホームに近い圓いテーブルにはミス、メリルと他の役員の方々と高子とてした。感謝の讃美を以て食事が始まりました。食事中は別に困りません。よく〳〵知つた方ばかりでしたから。御馳走はマントポテトー、トースト、パンと鳥、サラダ、コヒー。第二番には美しい菓子とアイスクリームとでした。さあ、食事が終りますと、少々胸がぴくぴくてしたが、又直ぐよくなりまして落つきました。ミス、メリルがプラットホームに立たれまして、今晩の集會の意を述べられました。

此の饗應は外國研究クラブの催してす。此のクラブは青年會にあつたのが二年前に消えてしまつたが又今度生れたのです。米國以外の諸國印度、支那、朝鮮、日本等の研究する爲で、唯々自分の國の事のみ考へず、着眼を廣くし趣味を增し、他國に同情の出來る樣にとの爲だそうです。それから河井幹事が當地を訪問せられた事から、今度私を客分として招いた事など、いと簡短に述べられて大に歡迎の意を表されました。今度は唯本や何かて勉强するのてなく、實際日本人が來られたのだから、此のクラブては親切にし一ヶ年間が有益になる樣にとの事てした東京には五十萬の工女、一萬五千の學生、二百余の

看護婦、一萬五千の實業界に居る者等があつて、青年會の働は最も未だ主に學生間にあるので、此度加藤は學生以外の人達の爲めにも働きたいのである。此の外國研究クラブは會員二百名として毎週木曜日ミス、メリルが司會して日本研究の夜とするから皆樣が出來るだけ來られたしと云々」といふ誠にお言葉巧ですが、嫌氣のない眞心のこもつた御挨拶でした。ミス、メリルは會長として立派な方です。優美な上に威嚴があつて、余り定り過ぎないて、自然で私はつく〲感心致しました。會の爲によく御盡力になります。名義上の會長ではありませんの。本當に日本でも此の樣な方がほしい事。

外國研究クラブの會長の挨拶がありて後に私を紹介されました。立つて禮をしたゞけですが、皆が話す樣に申されましたが私は其の準備はしないてよいと前に聞きましたのでしませんでしたが、ミス、メリルが私をプラットホームにつれて行き加藤は日本に居る中に英語を學び、然も、獨逸語で私は空腹であるまで知つて居るから何でも出來るが、今度大勢の人の前にては始めてだから、免して下さいとの事を申されました。私は唯プラットホームの上にて見せ物の人形の樣に一秒間余、ミス、メリルのお話の間立つて居て最後に禮して退きました。それで私の役は終りました。皆さんが心から悦んで下さいました。私も愈々小さくなりました。愈々一生懸命に勉强致しませう。二百余名の人が皆私の日本服を見たがつて、日本人は私共の樣に無禮ではないだろうが是非〲見せてくれと申され、まるで目が廻る樣でした。閉會後に下に來ました。又二三分間位日本服の見世物をされて、たう〱飛んで歸りました。私の一番驚きましたのは、集會した人達は大學や師範の女學生や商店に出て居るもの、工場に行く者下女等其他色々の人達でしたが、皆同じ樣に和氣に滿て居りました。此の樣に自由に皆が集つて樂しまれますのは幸な事で御座いますね。私は諸所に參りますが祈る事は忘れません。何とかして私がよき使とな

つて、日本をよく表はし、神の國の爲めに盡したいと存じて祈つて居ります。益々信仰に滿ちて落ちついて大きな氣を持たれます樣に御祈り下さいまし。まだ電車には一人て乘れませんから一番不自由てす電車に乘れる樣になればもう占めたもので御座いますね。車掌に云ふのと、下りる時がきまりが惡うございます。

最初の感想

大連　三好待子

淀みなき月日流れに流れて御別れ申上候て以來最早二月餘を過し申候、十月十三日午後當大連に安着仕り候、全くの新世帶の上に來客引續き家事には何の心得もなき悲しさに萬事捗取り不申誠に理想に遠き數旬を送申り候旅順佐藤久子樣へも御伺ひ致し度しとは來連以前よりの樂しみに候ひしも未だ御伺ひ仕り兼ね居候旅順と當地とは近き樣に候へども一時半計りかゝり候由佐藤樣にも是非にと御招き申上候御約束も有之候へ共未だ御越し不被下候、主人は北方沿線各地傳道の爲め今日も出發仕候へ共旅順には島村牧師も御出被遊候事にて未だ一度も參る機會無之過し居候、當大連教會信徒は僅に百十餘名に候へ共中々傳道心に燃え居り皆協力一致主の御用にいそしみ居られ候過る十二月七日の日曜には大人二十五名小兒四名の受洗者有之他に多數の求道者有之候事深く感謝致し居候、新開地だけに人心も若々しく進取的にしてこゝ以上に有望なる傳道地多くは無之樣存ぜられ候、當大連教會の新任長老紅松権二氏の御令室は加藤高子姉の御姉君にいらせられ候由誠に〳〵嬉しく親しき友を一人與へられし心地致され候尤も御夫人は目下御地に被居候へども紅松樣より河井先生とか高子樣とかの御言葉を承るが誠に嬉しく御座候、同氏は信仰、學識、人格何れの方面より見ても誠に得難きの御人物にて衆望を集め居られ候。

當地は日本人二萬支那人は其倍數諸外國人は百四名との事數に於て最も大なる支那人は汚なき勞働者が其大分を占め居候樣に見受け候埠頭に着致し先づ目につき候は彼等に候、此處にも彼處にも道路の兩側に呆然と立てる或は蹲むなど樣々にて何れも新調以來ぼろ〳〵になりし今日迄一度も水に通さぬといふ樣な地色も分らぬ計り汚れたる襤褸に身を纏ひ居申候一寸門の外に出で候へば支那の人力車夫馳せ參り乘るとも言はぬに梶を下して乘れと强ふる樣の經驗も度々致し申候、大連市中何處にても五錢高くて十錢迄にて參る由支那の商人は薄利にてよく勉强致し日本人の店よりは餘程得に御座候宅の前の廣場に朝五十人乃至百五十人位のクリー集り候晝頃に相成候へば二三十人位に相成り夕刻にはそれ〳〵働を見つけしか皆影をかへし申候丁度聖書にある「晝頃に亦空しく立てる者を見」といふ記事を何時も思ひ起し申候、日本人の多くは內地在住者よりも比較的安樂な華奢な暮しを致し居候樣見受けらるゝに反し支那人は實に憫然たるもの多く有之候、支那人盜人は到る處にありて彼等の目に觸るゝもの遠慮會釋なく奪ひ去り候小舍などの戸など何時も盜まるゝ由に候、大多數を占め居候哀れなる支那人を見る度に實に憫然た

る思ひに充され候主義たく、神無くして多くの變遷に驚かさるゝ國民の果はかくやと深く感じ申候、彼等は辛くも露命をつなぐ爲には如何なる方法手段をも辭せざる有樣に候、高位高官は日本人が殆んど獨占致し支那人は眞に言葉の如く路頭に迷ひ申居候彼等の罪が社會の罪かといつも彼等の爲に悲しみ居候、之を見るにつけ人種國民の差別なく何處に於ても傳道の如何に必要なるか又神てふ觀念なき時は如何に嫌惡と悲觀の人生を支配するものかと感じ候御互赤心より御國を萬國に來らせ給へと祈る責任有之候何卒滿洲の爲に諸姉の熱き御祈を願上候。

祈の夫人

莞爾生

雑巾がけする女中も讃美歌を唄ひ、車夫も聖書を繙く、某博士の一家には、目に見へざる神の宮殿が建てられてある、此家の夫人は蒲柳の質であるが、常に祈禱が精神の動力となつて居るから、柔の内にも何となく剛の氣が潜んで居る、夫人は曰はれた「自分は虛弱であるから祈を以てより多く神の聖旨を行ふ事を努めて居る」と實に夫人は祈により神より力を得て健康を依持せられ、大家族の主婦として内外遺憾なく盡され、一家はさながら神の子等の住み家、エホバの宮に等しい、之れ偏に夫人の祈が中心となつて指導して居られるからである、併し只遺憾とせらるゝは、主人の未だ信仰の道に入られざる一事である主人は日曜日又は祈禱會の日にも遠慮なく、客を招かんと强らるゝ事が屢々ある、夫人は斯る折にも一歩を讓られぬ、併し主人は隨分意思の强い方であるから、一言も逆はずに、只「はい」「左樣ですか」と答へらるゝ外、困つたといふ顏も見せずに唯祈らるゝのである、神は此切なる祈を聞かれ、其日を自然と避けしめらるゝに至る事を夫人は感謝せられて居つた。又一家の重要なる出來事に際しても、主人の意見と庭の逕ある場合がないでもない斯る時には穏に一應自分の考を述べる事もあるが、此場合には先づ祈を以て聖旨のある所を伺ひ、聊も私心を挾む事なきやうに畏れ愼て居られる、若し私心の爲め聖意を誤る事があつたなれば、自分のみならず夫にも罪に陷らしむる事な、恐れるといはれた、冗談半分ではあらうが主人は「お前の言ふ事は神樣の心であらう」といはれ夫人は「ほんとうにさう思ひます」と答へた事もあつたと語られた又如何なる困難でも祈を以てすれば、必ず善き方に運んで來ると心から感謝して居られた。「信じて祈れば求ふ所悉く得べし」（太二一〇二二）

初めての祈

仙臺　野副とよ子

私は神樣のお話を長らく聽いて居りましたが決心して信者にならうといふ樣な動機は別に起らず其日を平坦に送つて居りましたが、ふとした事から一人の子供が大病に罹り醫師も匕を投げ到底見込がないとの事になりました、斯る時の苦痛煩悶は親になつた人でなければ想像は出來るものでは御座いません、私は殆んど狂氣せん計り憂ひ悲み痩せ衰へ、主人も一人の子の爲お前が倒れたら後の者はどうするかと申して元氣付ける樣に務めて吳れましたが到底それらに依つて元氣は出でず猶ほ〳〵悲愁に取り圍まれました、主人は又平

生傳道をして下さいましたシユネーダー夫人に御願ひし來て戴いたらばとの事で早速同夫人を御願ひし祈禱をして戴きました、元より英語の祈禱ですからよくは解りませんが御熱心な事御親切な事には感激させられて居ました、或時は一日に二回も或時は御夫婦で御出下さつた事もあり其度每に熱心な祈を捧げて下さいました、其後不思議にも病兒が段々快方に向ひ終には床上げの祝をするまでになり神の御惠を感じは致しましたが强ちキリスト敎の神だけに感謝すべきものとも思はず召使等が諸處に願をかけて吳れました事にも依ると思ひ御禮參りにも人を遣つたといふ次第であります、其後もシユーネーダー夫人は親しく御交際下され祈れと仰つて下さいます、又信者の祈禱もきゝましたがどうしても自分に祈る精神は起りませんで悲しく思ひました、如何したら本當に祈れるか祈れる心が欲しいゝ存じました、此間も夫人は決して失望せずに祈れと仰られ家族の爲祈つて下さいました、終には私は悲觀して自身には信仰心は無いのかと斷念た程苦しんでも祈を本當にする心にはなれませんでした或日俥で町を通つて居りました處が一群の群衆に目がつき何事かと思ひ車上より視ましたら一人の少女が自轉車とかに轢かれたとの事で身體より出血して實に憐れな樣でありましたが其子は父親らしき者が抱き後に從ひました母親らしき人の靑ざめた死人の如き顏を見た瞬間、あゝ可愛さうだ神樣どうぞ助けて上げて下さいと思はず祈りました、其叫んだ刹那、氣がついて之が祈かしら私は祈をしたのかと思ひ嬉しくて堪らずもう心にぞく〳〵と感謝、讚美が湧き出し祈が祈と重なり確かに自分も祈が出來其祈は如何に幸なるかの味を實驗致しました、其歡喜は譬へそものが御座いませんそれより私には祈禱程氣を慰め心を和げ蘇生せるものは無いと思ふて居ります、此の經驗を得た後間も無く子供等と共に洗禮を受けまして今日も絕えず子供等と共に祈り此上なき幸福を經驗して居ります、それですから聖書の敎義はよく分りませず、信仰談は出來ませんけれども眞個の祈禱を以て神に近づくといふ事だけは動かす可らざる事實御座でいますので何時も此不充分な滿ない實驗談を申上て幾分か信仰の御助になればと存じ誰方にも遠慮なく御話し申して居ります此幸なる新生命を得ましたのも全く祈禱が其本源で御座います、信者で祈禱の無者は佛作つて靈入れずの樣な心持が致します。（文責在記者）

○六號座談

六號老人

▲何か若い方々の爲になるやうな話だつて……この老人に何が話せる、到底駄目だよ。

▲むゝ、まあ、思ふ事を折々遠慮なしに饒舌つても見やうが、大正新時代には老人の話は黴臭くつて仕方があるまいさ。……さうされ！。黴臭くても埋草位にやなるかも知れんな…。

▲近年は、婦人問題が大分八釜敷いやうだが、どうだれ。文明の昭代には自然に起る大勢…婦人の自覺による……。ふゝむ、まあ、結構な事だ。老人も双手をあげて贊成だ。こんな事は老人の若い時代には藥にしたくも無かつた事だよ。女といへば婦人三從で以て、イヤ早や終生頭の上つたものぢやなかつた。

▲しかし、婦人問題の解決は容易ぢやないのう。筆の先や、口の先のことぢやあるまいテ。此解決は結局婦人の實力だよ。婦人自身の腕骨が弱くちや出來上るこつちやないよ。議論や理窟は達者ぢやが其腕骨といふ點になると、實際の所、如何だね。

クオバディス感想

本誌一月號に於て廣告いたしました「クオバディス感想」の葉書募集は其後ボツ〳〵と集りましたから前號誌上に掲載する考へでしたが紙面の都合で延引いたしました。乃ち本號及次號誌上に分載することゝなりました。

（一）　河口　正子

私は活動寫眞は大嫌いで一度も自分から進んで見た事もなく又稀に參りましても中途で歸るのが常でしたのがこのクオーバディスの寫眞ばかりは全く魅された樣で終りました後も殘り惜しい樣な感じが致しました、そして眞に心に感じ多くの教訓を與へられた處が澤山に御座いました。中にもあのなよやかなかよはきリジアがたゞ熱心な眞面目な信仰と神樣にすがり捧げた强健な而かも愛に富んだ優しき心によつて、さしも肉慾にのみ捕はれて居た亂暴なヴヰニチユースの心を全く變へて悔悟せしめ立派な基督信者になした事が最も深き印象を與へました。そしてリジアに對するこの出來事の樣な事はよく今の世の中にても私共の上に參る事と存じますが、かゝる場合にリジアの樣な淸き情操と堅き信仰を持ちたいと思ひました。

（二）　鈴木　光子

クオーバデスを見て眞に感じた事は信者の意志の堅い事、賤しい心も高潔な心とどれ程感化されるかといふ事で御座います。

（三）　堀尾　禮子

リジアの信仰の氣高き事、眞の神を愛する精神のある者と然らざる者との相違の大なる事及び善き道を進むに唯やはらかき優しき淸き母の胸に居る如くにして行かれない事も知りました。

（四）　河野　幸子

淸き正しき心は初め苦しめられても後に惡に打勝つ大なる力を與へられる事、人間の心は惡に向ふ時獸より劣るものなる事、又基督教は信者があれ迄に苦難を忍びたる程偉大なるものなる事、ペテロがローマを捨てんとせし折キリスト現はれ給ひ民を救ふ爲にローマに行くと仰られしを見て如何に民を愛し哀み給ひしかを知り感謝せり。

（五）　杉橋　てい

愛は總のものを和ぐ而して最も强きものなり

（六）　坂本　壽子

かよはきリジアの信仰の力が如何に强きかに深く感じました彼女は遂に一人の人を神を信ずる人と致しました、又卑くなりて亂れしローマの内にも淸き信者達の信仰の深かつた事を見まして人は汚れたる所に居つても淸くなり得るものである事を感じました。

（七）　山田　春海

神を信ずる人がどれ位自分を捨てゝ神の爲に盡して居るかを見て大變に嬉しく感じました

（八）　北川　榮苗

今日世界の人々が大抵信ずるキリスト教が廣まる爲に大なる犧牲が拂はれた事、敵を愛するキリスト敎徒の博き心がわかりました。

（九）　佐藤　昌

神を通じての愛は潔し、眞の意味に於ての愛なき人は何事も行ふ事能はじ、ペテロニウスとベニチユースの人物を比較するに一方は快樂主義にて萬事華かにして成功的なるも永遠の命限りなき命の信仰なき故に終は煙の如く消ゆるなり、永遠の生命を信ずる人の如何に樂しく他人の味ふことの出來ざる喜びあるかを思ひぬ。

小説 ひとりぼつち後篇

河井道子譯

第二章（二）

牧師は答へて、

「此村で以前は辨慶で見て居たい様な頑丈た好男子の石工がありました、彼は隣村で評判の姿色よしの娘を娶り玉の様な男の子が生れて拜まん計りに大事がり寵愛して居りました、或日岩石爆散る仕事の監督をして居りましたが、不幸にも爆裂で失明になりました、内儀は丁度病床に居りましたが夫が怪我で擔ぎ込まれると愕然て逆上たが元で二十四時間内に死にました、石工は此悲しみにつけなほ以前に彌増し子息を可愛がつて守をして居ました處が、一日親子で川の方に運動がてら行きました、すると如何いふ機勢か子供が水に落ちましたので親は吃驚いて大急ぎで水中に飛込んだが悲しい事には盲人なので遂々愛兒を溺死させて仕舞ひました。盲目になつてからは教會の鐘撞を職として欠かさず禮拜にも出席したものですが此の不幸の後は拙者が恁麽事をしても教會に連れ出す事が出來ません、彼は自分の苦痛の中に神の恩惠を見出す事が出來ず、遂に難義が彼を冷酷な人に仕て一生を破壞さして仕舞つたので御座います」

「氣の毒な人ですね…それは不憫な事です、成程貴兄は、不幸悲哀が都鄙を問はず平等にあると御主張なさる理由ですね」

「禍祥も亦同じに」と牧師は冴えた眉を開いて附加へました。ベテーは其先を聞きも果さず目に一ぱいの涙を湛へてつゝと座を外して出て行きました。

あゝ可愛そうな可愛そうな人何かして慰藉方がないかしら、私は誰かの慰藉者になれたら恁麽に嬉しいでせう、然し人を慰藉る等無双にむづかしいのに相違がない、同情を慰藉と解會て居る人もあるけれどそうじやない、難義の原因を變更るか無くしなくつては慰藉られるもので無かろうなどとベテーは夕

陽を浴びて庭の小經を歩き乍ら心中は他人の悲哀で縷の如く千々に亂れました。人生は彼女にとつて不思議の難問題です、感情の細かな彼女の心に常に往來したものは影でありましたが此の影がある丈け又喜悦の日光が射す時は一層物が輝いて見えます、翌日は日曜日でした一緒に禮拜に參ります姉娘の美しい容姿は鄙の會衆の注意を惹きました、妹の方は音樂、說教、禮拜と周圍の何から何まで皆氣に入りました、自分の席の側には開放いた窓があり窓際の紫丁花木から心の限りを唱う鶇といひ灌木の馥郁たる香といひ彼女の心を嬉々と振動させました。姉マレーが批評した樣にベテーは細少の事で機嫌を害へば又瑣細の事が彼を喜ばせますので今は上々機嫌で教會を退出しました。マレーは母からの命令で出口の處で立止り母からの傳言を人にして居ります內に、ベテーは綠の芝に出て、生垣のやゝ綻び初めし山楂に手を觸れ樣とした刹那後から足音が聞えますので振向くと背高き灰色の頭髮をした凛々しい紳士と顏を見合せました、熟視て居りしはほんの一瞬間で、ベテーは兩頰を薔薇色に染めて我知らず手を延し、

『確かに貴下はミスター、ラセルでいらつしやいます』と申しました。告別以來永年經過しましても彼女の記憶には此の懷かしき人の顏面は明瞭と印象されて居ります、聲掛けられし老紳士は帽子を擧げた儘茫然として此方を締視る計り「あゝ」と今迄莞爾とした脣が急に悲しげに震えて、

『私をお忘却て御座いませう、貴下は私をすつかり失念になりましたね、私共が農塲に參りました翌年ロンドンで貴下に御目にかゝりましたが彼時は今から十四年計り以前でしたろうね』紳士の眼中には氣付しか光が現はれて、

『よもや貴女があの小さいベテー、ストワードではありますまいね、いや然しそうでせう、その眼が昔と少しも違いませんもの』かく云ひつゝ紳士はあつく握手をなしベテーに當地に來りし理由を問ひ出しました。

「十四年間は私の一生涯中の束の間としか思はれませんが貴女にとつては大層長い星霜てしたね、あゝ私のあの可愛らしい小さいお友達が私の悲しい心中に竊り入つて來て仇けない眞實な同情て慰藉て呉れたのは昨日の様な心地がします。あの子は今生存し居ない最早死んだものて殘つて居るものは昔の懐しい追懐の情計りてす」ベテーは少し耻しさうに、

「貴下の御好なのは子供計りてすね、私はもう貴下の御友情に御頼り致す事は出來ませんのですか」

老紳士は暫時ベテーを凝視て居ましただ微笑が彼の顔を和げて、

「我輩の氣が落付なくては返事が出來ない、貴下は今華な御令孃、昔馴染の私のベテーは綿服着て日除帽子を被つた無邪氣な子供てした、此二人を一人にして見るには中々時間がとれます」ベテーは聲優しく笑ひつゝ懐しげに紳士の腕に手をかけ、

「貴下が私を此まゝ嘉納て下さるならば、私は矢張り昔通りの小さな子供だと御分りになります、身體こそこんなに成長くなりましたが心情は別に變化が御座いません」

「ひとりぼつちの變人さんが」とラセル氏は陶然として處女を頭から爪先まで見守つて申しました。

「今でも未だ變人て御座いますよ、自分の舊友の一人が妙な顔をして私を見て下さると悲しくなる程な變人て御座います」

紳士の顔には微笑消やらず、

「貴女は此淋しい老の心に又竊り戻つて來た譯てすね……御母公は訪問者に御會ひなさる程御快しいのてすか、御伺ひして舊情を溫め度う御座いますが、參上ていゝてせうか」

「母は卿の御光來を喜びますは必定で御座います」と眞面目に答へつゝ此方の方面に歩いて來るマレーを見つけ、

「マレー往年乳母と小川農場に居た時のラセルさんを記憶て居て？ 私を忘却ていらしつたから自分て紹介しなくちやなりませんてしたよ」

マレーは握手しながら、
『私共は會堂で貴下を見つけたいと思ふて居ましたが前の方に着席ましたから誰をも見られませんてした、私ならそう直ぐに貴下を看破られなかつたてせう然し貴下はベテーの友人て私のじやいらつしやいませんてしたもの』莞爾として挨拶しました。
『あゝ活潑て腕白な坊様の阿兄は何處てすか、兄さんの指圖に何ても從つて居ましたくるく肥つた雙子の弟さんはどうしましたか』
『ドグラス兄は陸軍砲兵に入り昨年の秋、印度へ參りました、ハビーもビリーも最早青年てすが今ても離れ難いので兩人とも地中海を同じ軍艦て巡廻中て御座います、妹と私は兄弟達が居りませんと淋しう御ざいます、是非貴下母を訪問して下さい、近頃は少々病身て御座いますが他様に合へない程てはございません、あの牧師館を借りて居ます。さあ、ベテー歸りませうお母様がどうしたかと心配しててせうから』

マレーは優柔に歩き出しますので、ベテーは殘り惜しそうに同伴て行きました。
『姉さん、もう一度子供になりたいぢやありませんか』
『否、大人の方が幾程興味か知れはしない、色々の希望や目的があつて子供時代は狹隘な思考しかあらしないもの』と斷言されてベテーは默つて馬車道を歩いて居ましたが心には或失望の思が通ふて居ります。
『衆人が私の子供時代程、今の私を好いて呉れない余程氣無味い不滿い人間に成り果てたに相違がない、どうしても姉の様に澤山な友達が出來ない』と嘆息の體てありました。

○和歌

小田原 寺西良三

良心と云ふことを
人心なにゝたとへむ村雲の
たち蔽ふそらにもるゝ月影

聲聞まことに過ぐると云ふことをよめる

よし人はたまとみるとも白露の
　ひかりなき身を恥ぢざらめやは

臺灣臺中　松岡琴子

○

うちむかふ月のかゞみの曇りなき
　すがたを人のこゝろとふかな
なよ竹のなほきをおのが友として
　うきふししらぬとしぞ久しき

稟告

學校內の女子青年會員諸姉中には今三月を以て卒業さるゝ方も數多あるなるべし、斯る方々は地方に離散さるゝとも可成女子青年會本部に連絡され會友となりて御盡力あらん事を乞ふ、在校中熱心なる會員諸姉も學校を離れ青年會の無き地に轉住さるゝ場合は兎角本會と無關係の如き姿に成り易きものゆゑ、願くば學校を去らるゝとも猶本部の會友となり各地に此事業の開發せられん様御盡力を希望す。會則は本誌の後部に記載せり、就て御覽の上申込ありたし。

大正三年三月

東京市牛込區田町三丁目十二番地
日本基督教女子青年會本部

聖書研究

馬可傳研究

一月號に豫告いたしました通り今號から本欄を復舊いたしまして本年中に完結の豫定でミス、マクドナルドの「馬可傳研究」と題する馬可傳を基礎としての諸研究を掲載し始めます、實は前號よりと思つて居りましたが原稿やら誌面やらの都合で今號からといふことになりました。皆さんの御海容を祈ります。

記者

使徒ペテロ（一）

マクドナルド

或る事情の必要から、此頃彼得前後書を研究いたしまして、ペテロは如何にして斯くも深く基督の精神を覺り且其敎訓の眞意を解するに至りましたかを感ずると同時に、更に馬可傳に就てペテロの前半生を詳に研究する考が起りましたので御座います。而してペテロの前半生を研究して見て其後半生との區劃が如何にも劃然として居るのに今更ながら驚いたので御座います。彼得書を讀んで見るとペテロといふ基督の弟子は何と豪い人物であるかと思ふので

御座いますけれども、彼は決して最初から其の様な豪い大信仰家であつたのではありません。其の斯る人物となるに至るまでには曲折もすれば奮闘もあり種々の徑路を辿つて來たものであつたので御座います。其を研究する事は實に私共に取つて大なる教訓を與へる事で御座います。

馬可傳を研究して見ますと全傳中にペテロ又はシモンといふ名が現はれて居る個處が十八個所で御座います。そして使徒行傳の方には三十一個所であります、之れてペテロの聖書記事中に現はれて居る歴史的の事實は總てゞあらうと存じますが、其の上から考へて見ても基督の弟子としてのペテロの關係及其位地は十分推知する事が出來るので御座います。

それで、最初に現はれて居るペテロの記事は、ペテロが基督の召を蒙つた事で御座います。元來、ペテロは漁夫で御座いました。其生活も其品格も當時の普通のものでありまして決して高尚な理想的のものではありませんでした。けれ共基督は此ペテロに對して一の望をお有ちになりました、即ち斯人を弟子として能く教へ能く導き神の愛を知らしめるやうに致しますならば終に最初の教會を立てる土臺になる程の熱信者とする事が出來るといふ御考でありました。實に基督はペテロに對しては大なる將來の望を囑して御召になつた事と存じます。其事柄は一章十六以下二十節にある通りで御座います。そして之を御召になりました譯はといへば『我爾を人を漁るものとせん』といふので御座いました。御覧なさい基督の御考はペテロを召して單に其品性を高くし修養を努めるといふやうなこと計りてなく、更に將來に向つての一大使命を與へられたものである事が明かであります。そしてペテロが『人を漁る』といふ基督の御言葉を聞きました時に、其職業柄、魚を漁る事から想像して其意中には釋然として悟る所があつたてあらうと思はれるのであります。斯くてペテロは魚を取る網を捨てゝ基督に從つて魚に代ふるに人を漁る決心と致しまして基督の旨と教に基いて新

しい働を取る生涯の序幕を開いたのであります。

馬可傳を研究して見ますと、基督は度々ペテロの家に御出になりまして恰度自分の家と同じやうに御泊りになつた事も御座いましたので御座います。（一章二十九―三十一、二章一―十二）其のやうに基督はペテロと親しい交際があり、又常に相伴ふて各地諸所に御出掛けになつた關係もありましたから、相互に知合ふ點も深くなりまして、基督はペテロが如何な性格であるか、其長所も、其短所も能く見拔いて居られましたが、一方にはペテロも基督の氣高い所を慕ふやうになり知らず〳〵の中に其感化を受けて、幾多の失敗は致しましても、如何しても基督の惠を離れる事が出來ない程の結び目が出來るやうになつたのであります。實にペテロの性格は誰も知つて居ります通りに、頗る弱くて、種々の危機に際會して屢敗北したのであります。けれども基督は彼に囑する將來の望のために、すべてを耐忍して其人を捨てず、却て特別に之を教訓修練せしめました事は眞に感ずるに堪へない事でありました。（五章卅五―卅七、九章二―八、十四章卅二―四十二）

三章十三節以下の記事を讀んで見ますと、其は基督が十二使徒をお選びになりました事柄で御座いますが、基督は最初より多くの人と交際し、多くの人に教をなさいましたけれども、未だ此時まで特に使徒として選定せられたものは無かつたので御座います。處が此時に至て十二人の弟子を選定して使徒となされました。この十二人の中には格別豪らい人はなくて、皆普通一般の人のみで御座いましたが、兎にかく、基督に親炙して其眞精神を受けて深く基督の内的生命に接觸したいと望んで、日常の業を拋つて、人を漁るものとなつて基督に從つたに相違ないのであります。ペテロも矢張り同じ精神をもつて使徒の一人に選ばれたのでありました。

然るに、茲に一の注意すべき事は、この十二使徒の中の三人が他の使徒達よりも基督の精神の深い意味を悟るやうになつたといふ事であります。そして

基督も亦之を認められまして此三人に對しては他の九人よりも、特別の交際をなさいまして、他の九人の見ることの出來なかつた基督の大なる働や基督の光輝ある容貌までも見ることが出來たのは此三使徒でありました。そして此三人のうちの一人はペテロ其人であつたといふ事であります。（五章廿一―廿四五章卅五―卅七、九章二―八、十三章三、十四章卅二―四十二）（以下次號）

衛生

肺結核は如何にして傳染するか（續）

グリスウオルド

▲肺結核患者の候補

併し、聖書にも書いてある通り、善良なる種子が豊饒なる畠に蒔かれる時に、百倍二百倍の收穫があるので、この肺結核菌も豊饒な畠に落ちることによつて、多大の果を結ぶのでありまして、さうでなければ決して傳播するものではありません。そして其豊饒な畠といふのは人の肺臟で御座います。殊に虚弱なる人の肺臟は肺結核菌の繁殖するに最も好適な畠地であるので御座います。故に若し人が毎日攝取する食物の滋養分が豊富でなく。それに引きかへて其働く事は多くの時間に渉り、自然に其體力が弱くなつて來るならば、蓋し疑ひなく其人は肺結核患者の候補であります。又た、若し生れながらにして胸廓が狹くて窪み込んで居て肺量の僅少なる人があれば、其人も亦肺結核患者の候補たるを疑ふことが出來ません、虚弱なる身體は肺結核菌の傳染を招致する媒介としては最も有力なものであります。

▲患者養成所

私は或る學校の宿直部屋を想像して心を寒くするので御座いますが、其宿直部屋は三方が壁で大層

暗くて、窓もありませんから自然日光のさし込む所もなければ、新鮮な空氣の入る道もありません。之は肺結核患者の養成所としては實に恰好な構造といはねばなりません、其一隅には古びた寢具が積み重ねてあつて、もう幾日ともなく其儘にしてあります新調せられた寢具が其傍に積んであります、宿直員はこの新調寢具を用ふるのでありませうけれども、不用に歸して居る古寢具は片付けやうともせず、然かも部屋の隅に新舊寢具が相接觸して置てある、殊に、其一ケ月程前に其學校の職員の一人は肺結核のために仆れたのであつて、其職員も仆るゝ以前には屢宿直當番に當りて其の夜は其古寢具を被つて就寢した事もあつたと思はれます、嗚呼、實に危險極つたことで、想像するだに身に粟を生ずる、そして斯樣な宿直部屋は私は實際之を地方の學校などに於て全く見ない事ではないやうに思ふのであります、斯くして肺結核菌は盛に跋扈して天下を横行しつゝあるので御座います。

▲肺結核の徵收

要するに、肺結核の傳播は以上申上ました如くにして傳播しつゝあるので御座いますが、終に肺結核に罹つた人の容體は如何であるかと申ますと、第一顏色が青くなつて咳が出て、働を致しますと大變に疲勞を感じて何にも骨折業は出來ません、時々午後になると發熱して兩頰に艶のよい桃紅色を呈するやうになるので御座います、又睡眠すると盜汗が出て體量は次第々々に減少して來るのであります、斯る徵候があらはれますならば之れ疑なく肺結核の襲擊を受けたので御座います。

以上、私は肺結核の傳染について述べましたが、更に申上たいことは之に對する豫防と注意とてあります。私は猶ほ近日中に稿を改めて『肺結核果して怖るべきか』に就て述べて見たいと思ふので御座います。（完）

本部

●中央委員會

日本基督教女子青年會本部に於て開催、出席者は委員、井深花子、三谷民子、津田梅子、長谷川喜多子、河井道子、ミス、ウエスト、ミセス、クレメントミス、マクドナルド、ミス、レーガン（以上東京）山田千代子（横濱）ミス、デントン（京都）其他ミス、ダルトン、ミセス、ピカステス、ミス、ワットネ、ミス、ペーヂ、ミス、カウフマン、ミス、ベーカー、周防蝶小畑德枝、恩地一枝、門倉ふじ子、林ふさ子、大呑久子の諸氏。

井深委員長司會し、三谷書記の記錄朗讀、ミス、レーガン會計報告、ミセス、ピカステス旅行者保護事業に付ての經過、現狀並に希望を述べ、ミス、ダルトンは外人宿泊所は過去一年間經費家賃、食料には負債なく現在負債は家具其他の設備費にて壹千四百九拾四圓六拾五錢あれど兩三年中には容易に返却する事を得べく又同宿泊所に滯在せし人は宣教師五十九名、旅人五十六名、日本語研究生三名、事務員一名なりと報告し委員一同は同氏の厚意又好結果に對し感謝を表せり。ミス、マクドナルドは米國加州博仁會より日本婦人の渡米狀態を憂ひ之が改善を圖るに就き本會に照會ありたる事を報告し委員は幹事に托して其事情を調査するに決す。次に河井道子を萬國學生基督教同盟會委員に擧げ。津田梅子はモハンクに於ける大會につき所感を述べ如何に此事業の世界的にして有力なるか又四十箇國の代表者三百名の協議講演等にて各自覺醒せし點又基督教事業の困難は非基督教國よりも或點に於てはラテン民族新教徒以外に於て甚だしき事を悟り是より各キリスト教信徒の責任を一層感じたりとの報告及所感あり。次に目下歸米中なる東京女子青年會幹事ミス、マシウの滯米を同地に於て外國傳道獎勵遊說のため六ケ月間延期せんとの米國本部よりの照會に對しては之を

幹事に托し津田梅子、ミス、ウエスト兩氏を顧問として決議する事に一致す。今年の夏期修養會委員は前年通り依頼せん事を決議し河井幹事より書面を以て依頼する事に決す。ミス、ワットネ東京女子青年會報告をなし。旅行者係林ふさ子を出席者に紹介して閉會す。

支部

●東京基督教女子青年會　一月十三日午後二時より本會に於て看護婦委員會開會、大西、三浦、周防、ミリケン、河井、ページワトネ諸氏出席▲十九日、新に恩池かずゑ氏の聖書の組を開始す、此組は以前矢島瓜生氏及加藤高子氏の受持たれたる女子商業學校生徒の二組を合併したるものにして、出席十一名▲此日午後一時より押上富士紡績會社工場に於て工女等のための集會、ミス、ページ、三田、木澤、レーガン、大呑、門倉、大西河井、三浦諸姉出席さる▲廿三日より從來の聖書の組は凡て開始せり▲卅一日、津田梅子氏より依頼を受けたる東北及櫻島被害民に送る慰問袋二百を會員聖書の組の生徒十數名打集ふて縫ひ且之れに物品を充たすための代金七圓をも寄附せられたり▲二月三日、午後一時半より押上工女傳道會あり、本會及本部より多數出席し、救世軍よりも數名の男女士官出席せられたり▲四日、寄宿舍委員會を本會に開く、大西、門倉、松宮三氏來會、午後三時より東京委員會開會、三宮、小室、小畑、河井、星野、ミセス、ビカステス、ミス、マクドナルド及ミス、ページ、ミス、ワトネ出席、各部委員の報告ありしが其概要は、▲目下寄宿舍生納戸町三十二人、安藤坂廿八人▲中央會館資金は前報告以後二千七百廿壹圓參拾五錢を得たり▲上野停車場新事業に就ては今度新たに林主任の補助者として松崎氏を得たり、此事業のために得たる今日迄の寄附金總額は六百九圓七拾貳錢にして、諸般出費差引現在高四百四十一圓六十二錢。二月六日、午後三時半より聖書の組指導者會あり、星野光多氏を聘して聖書教授法につきての講演を願ふ、出席者廿五名。

會員現在數維持八十九人、通常百卅八人なり。

新入會左の如し。

維持——ミセス、フーラー、ミス、アルウイン

通常——藤井歌子、高橋玉枝、岩本昌子、草間よし子、水嶼はる子、川喜田あつ子

聖書の組總數は十三組。

◉宮城女學校青年會●●●●●●　當青年會にては昨年の暮五六の正會員を増し今學期中には大音樂會開催致し度計畫にて只今それ〴〵準備中なり何卒よき結果を得度きものと祈り居候。（野村とく報）

◉横濱女子青年會●●●●●●　來る三月七日茶話會を開き會員同情者を招待して、一ケ年の報告をなし、尚今後の方針に就て協議する事となれり、本會は當市の高木秋山、野村、手塚諸夫人方の有力なる同情と應援とを得て益々進歩の域に向ひつゝあり。

◉女子英學塾女子青年會　大正三年一月十三日午後十二時半より役員會を開く出席八名議長岡本會長本年度新役員及び委員長改選につきて議す豫め候補者を定む▲十四日午後三時より選擧總會を開く出席者六十五名司會者岡本會長はじめ二年生の正會員は皆候補者にえらばるゝを以つて投票權なきものとして退場せしむ候補者指定委員を司會者指名し馬場岩光一條伊原の四姉となしその投票の結果當選の役員左の如し會長井上文子副會長澤口つや子書記莊原秀子會計高橋久與。右新役員の紹介ありて後澤口新副會長の祈禱を以て四時過ぎ閉會す▲二十一日午後十二時より臨時總會を開き委員長の再選をなす出席者三十五名中名譽會員一名他は皆正會員とす一度役員及び委員長を選擧せしも正會員のみならず唯會員も共にこれを選擧し且委員長の内正會員ならざるものありし爲本會の憲法にもとれりよりて再選を行ふ司會者岡本會長役員は勞力を省く爲以前のまゝに可決す河井先生とかこの再選に付て憲法に誤ありし事の御說明あり當選の委員長左の如し誘導委員長高橋まさ子集會部委員長上野俊子社交部委員長宮澤操販賣部委員長石渡せつ子圖書係陶山よね櫛田孝子の諸姉なり▲昨年第二學期に於て本會の働き

として一昨年と同じく手細工物を米國其の他の學校に送る事とし學期始より著手し十一月初旬全部を揃へ發送すその品物はだき人形の袋テーブル掛ナプキン扇子(女物)洗濯袋カードケース經木細工のカード暦等にて五所に送る▲青森縣弘前に於るメソジスト教會の發起により東北地方の飢餓にせまれる同胞救濟の事業はじまり諸方の同情者の贈物をうけられ罹災民に分つ事を聞きしにより本會にても些か慈善の爲と思ひ又同じ神の子なる我が同胞を幾分なり共其の苦難より救ひ且我々の喜び歌ふクリスマスの佳節に我等の喜びを分たんものと思ひ會員諸姉とはかり會員は勿論本塾生徒すべて一致して我々のクリスマスの贈物を買ふ金額をさきてこれを集め且其の他不用の雑品足袋等を教會あてに送る且本會の聖書の組を擔任せられし先生方にクリカマスの志ばかりの贈物をなすが例なりしが此れも廢してその金額の全部を送る。

總計參拾七圓內小包代及び爲替料を差引殘金金參拾五圓七十錢を送附す。

●旅行者の保護報告

前號に申上た以後宅に宿泊ました者は八名御座います、或者は一兩日或者は十日間も泊めて世話を致しました、只今は十一歳になる少女が行く處もなく其身許を調査中を泊らして居ります、此兒は數日以前に上野に參り十八歳になる娘と同行でしたが、其談をきくと如何にも不思議又不憫で御座います、十八歳になる方が秋田縣の某田舍の停車場に來て横濱の工場に行かんとして居る處へ、父らしい人が十一歳の小供を伴れて、若し東京へ行くならば一所に此兒を賴む、上野に行くと、迎の者が出て居るからとのことで只何の譯もなく乘せてよこしたとの事です、途中某紳士が何處に何をしに行くと問れし故、有の儘をはなしたらば、其は不可からとて元出立した停車場へ戻してくれた相です。すると、其處に以前の父がまだ居て、其を聽き、其樣に心配は入らぬ慥かに待つて居る者があるからとて、又二人を乘せてよこしたとか上野に着するや勿論迎の者がある筈もなく、私が見付て伴れて參り事情を尋ね處分を考へ中で御座います、十八の方は横濱へ伴れてゆき約束したとか申す工場に置て參り、十一歳の方はまだ宅に居ります、何しろ家も番地も不明のことゆゑに困難で御座います。

又行先きが判然しませんもの丶送り届けも四人いたし、其他車にのせるとか荷物の世話や、切符を買ふとか色々の用事が御座います中には一日寒い日に十四五歳の少女が停車場で泣て居るので理由を聞糺しますと、靜岡の某工場の者で母親が病氣で秋田へ歸國するのだが東京迄きたが金が不足で切符が買はれぬとのことです、處が驛

内の方々が親切で、其は不憫だとて、十錢二十錢寄附があり鐵道院では半額にして下さるので二圓いくらの金子を手にして乘車して行きました、鐵道の係の方々は眞個に御親切でよく困難な者を世話なさいます、此娘のはなしを聽き血の涙が出ます、十三歳とかの時に父親が怪我をした時に恰度工場行を勸誘する者があつて、五ケ年間を十八圓で行く事になり、其間は如何なる事情ありとも、親が死んでも歸國出來ぬ約束でしたさうですが今三年も經てから母親が重病に罹り如何にしても、娘に今一目逢ひ度とて屢々工場に願つたが娘には一言も通知もせずに知らん顏して取付かない、其で親は靜岡の警察に事情を通じ金子四圓を送つて娘の歸るを依賴したので雇主は不承々々に許可して、不精々々に免じました。其時其子の契約年限の三年間を十四圓で契約をしなほせとの無法な事を申しました、此樣な義理も人情もない工場はこゝ一つではなく日本中に澤山あると思ひます、女子青年會は其少女の事をきいて十四圓で少女の自由が買へるものなら當つて見ようと思ひ取調を致し兩親とも相談して元の工場に歸らない處置を執つた事もあります、これは一例に過ぎませんがこれらの類は數多くあります故進んで工場のかゝる惡手段を輿論によつて改ためなければならぬと存じます。（林主任）

雜報

◉中國聖公會音樂會　二月八日東京小石川區指谷町なる同會堂に於て支那婦人の爲音樂會催され、マクドナルド、河井兩幹事出席して勸話をなせり、因に記す目下在東京の支那人總數は二千四百四十七人にして男子は二千百三十二人女子は三百十五人なりと。

◉全國協同傳道　三月を以て開始する全國協同傳道にては三月一日聯合祈禱會を各地に開く由、東京に於ては本鄉組合敎會、麴町番町敎會、新橋敎館等にて開かるべく、井深梶之助、小崎弘道、植村正久諸氏の談話ある由、又三月二日より四日迄東京神田青年會館にて同傳道の爲京濱修養會を催すことゝなれりといふ。

◉石井十次氏　岡山孤兒院長石井十次氏は日向茶臼原の農園に於て一月三十日午後二時遂に永眠せらる享年五十なり、基礎既に確立せる同孤兒院は善後の策に窮ぜざらんも人物拂底の宗敎界の缺陷は如何にして之を充すべきやを知らず、實に痛惜の至といふべし。

聞く所によれば、同院が創立以來過去二十七年間に收容したる兒數は男子一千三百六十三人、女子七百二十六人にして合計二千八十九人なり。内
現在―男二百八十九人、女百五十人計四百三十五人。
死亡―男百五十六人、女八十五人計二百四十一人。

逃亡—男二十九人、女五人計三十四人。退院—男八百八十九人、女四百八十六人計千三百七十五人●獨立自營三百八十二人、其職業別は農業八十九人、工業百十九人、商業八十四人、軍人六人、官吏十人、會社銀行員六人教員四人、鐵道員九人、船員十人、其他四十五人成績皆良好なりといふ。

◉東北凶作地よりの感謝狀 ●●●●●●●●

東京女子英學塾は別項報告の如く先頃金子衣類等を凶作地に贈りしに山鹿元次郎氏より左の如き禮狀來れり。

拜啓御惠送下されし衣類十點正に落手仕候去る日曜日集會の折數點分與致し申候、中にも一人の母が子供の爲に與へたる飛白の衣類母は涙を以て再三再四ながめ喜び居候御惠送の中白足袋は餘りにハイカラの品の樣思ひ是は何とか處分する考へに御座候御厚意ノ段難有御禮申上候惠送者の皆樣へ宜敷御傳へ下され度願上候勞働婦人紺と白とを違へはき居候者に白足袋を與へ候處ニコ〳〵喜び居候。

拜復一年中最上の樂みであるクリスマスの贈物を御節約遊ばされ多大の御同情を以て多額の金員御惠送下され感謝と涙を以てありがたく頂戴仕候新聞にて御讀の通り實に本年の凶作は慘たる有樣にて私共クリスト信徒として出來得る限りの力を以て活動を始め幸にして皆樣の御同情により林檎の行商團を東京に八名送り施米十二月三十一日より十二月三十一日までに累計二百八五十戸人員累計千百人内大人六百二十人小人四百八十人施米一石八斗五升三合を給與仕候現在毎日戸數六十四戸人員百二十四人御座候、今後永く引續き凡て當る考へに御座候、此度は國産織物工女約八百人職を失ひ或は賤業に就かんとするもの出來致し心配致し居候扨機業者と計り國産織物（木綿）販賣を全國教會、女學校に御願する筈に御座候御校生徒の着用にはなりますまいが女中の爲に御買ひ求め下され候へば工女を救ふ一助とも相成申べく候間何卒宜敷願上候又東京女學館よりの衣類は日曜日に細民を呼び集めそれ〴〵分ち申べく候。

個人消息

○藤田貞子姉　同姉は今回橫濱市西戸部縣廳官舎二ノ四三に轉住。

○ミス、グーリン　長らく女子英學塾日本女子大學校等に教授されし同姉は今回東京を引拂ひ歸米の由。

○河井道子姉　同幹事は仙臺教會婦人會の招待にて一月下旬該地に出張し五回の講話をなす▲一月二十七日東洋英和女學校王女會にて講話す▲二月十五日婦人傳道會社の依賴にて千葉基督教婦人會に赴く。三月下旬には婦人傳道會社を代表して朝鮮に出張の筈

○高俞和子姉　プール女學校の同姉本部を訪問す。

○ミス、デンドン　京都同志社女學校長ミス、デンドンは日本基督教女子青年會中央委員會列席の爲態々夜行にて來京、又夜行にて歸校さる同姉の熱心なるは感激に堪えず。

○ミス、マシウ　目下米國にある東京青年會幹事同姉は今年夏迄紐育幹事養成所研究科に於て勉學中來年一月末來朝の由。

○ミセス、チャーチ　目下加藤高子姉の滯在中なるミルオキー青年會委員チャーチ夫人は良人と共にマニラに赴かるゝ途次東京本部を訪問さる四月には再び東京を訪ねられ二週間滯在さるゝ由。

○松崎なほ子姉　二月より東京女子青年會の旅行者係として招聘す普連土女學校出身なり。

○子爵青木周藏氏　二月十六日午後八時永眠さる女子青年會は謹み

て哀悼の意を表す、同子爵夫人は東京女子青年會委員なり。

○學生傳道義勇團出席者　本年一月北米カンザス市に於て開かれし學生傳道義勇團大會に日本婦人として出席せしは加藤高子、國井綾子(札幌北星女學校出身)佐藤りう子(普連土女學校出身)等にして東京女子青年會幹事ミス、マシウも出席す。

○加藤いつ子姉　加藤高子姉令妹同姉は越後村上教會の主任者たる村上治氏と一月十二日結婚式を擧げらる。

○安井哲子姉　二月八日よりの前橋集中傳道に江原素六、吉野作造諸氏と共に赴援。

讀者便り

○私は毎週の水曜日が本當に待遠しい

札幌　大川きく

私事いつもの様に歸宅致しましたら「女子青年界」が參つて居りました誠に嬉しく袴も取りませんで一生懸命に拜見致しました。私は本當に良い雜誌と深く感謝致します。何故早くから氣付かなかつたのであるかと今更惜しい氣が致しました。是から私は此會說によりまして又清き會に怠らず參りまして少しなりとも美しい清い心となり此清き會の有難さを多くの人に知らるゝ事が出來ます樣に務めたいと心から感じました。横澤先生當校に御出下さいましてから初めて神樣の有難い思召を知る事が出來ました私は毎週の水曜日が本當に待遠しいので御座います此日は横澤先生のいとも御熱心な御講話を何事も知りえぬ私共に垂れさせ給ひまして星の輝く頃清き心となつて歸る事が出來るので御座います。けれ共至らぬ私には之が中々永續出來ぬので御座います。此頃は此清き集の人も段々多くなつて參りまして大層嬉しく存じます。英語は今迄は本當に興味の少い學科で御座いましたが此頃は横澤先生のいとも御熱心な御教に依りまして興味を以て學ぶ事が出來ます樣になりまして非常に嬉しく存じて居ります、又英語の時に色々と修養になります數々の御話を承りまして誠に有益に過して居ります。

○自分の意氣地無いのが熱々お耻しい

東京　五島秀子

只今は夜の十一時、近邊は靜かで唯だ時計の音と時々明神の坂を上つて行く電車の遠くでキーッといふのが何ともいへぬ寂しい氣を起させます。私は先刻着いた「女子青年界」を讀んで居ります、河井先生の御書き遊ばした「七里靴」を拜見致しまして私は自分の意氣地無いのがつく〴〵耻しくなりました何時も進歩したい發達したいとは思ふて居りますが其手段をとつて居りますでせうか思ふ計りでツイ人の言葉や顏色を氣にしたり良い本も讀まず良い御話も聞きに出ず正しい事と知り乍らしないのは矢張り惡いので御座いませう此頃は何だか私は皆様から離れて横の方へ行くのではないかしらと變な氣が致します。これからつとめて良い方に向く様修養致さうと存じます。

○階子を蹈外して情ながつて居るのです

水戸　大川喜代

「女子青年界」昨日拜見致しました社說で本當に心强く感じました餘り自分が失敗計り致して居りますので時には自分が厭になります事さへ御座います、本當に一足飛に立派な人間になるつもりでも居らぬのでせうが矢張り知らず〳〵の中に不意に一夜造りで立派な人間にならうとあせつては時々楷子を踏み外して情ながつて居るのです、私は丁度三週間も日直また明後日も日直日曜學校の方も心配になりますが公務致し方もなし只々祈つて居ります。横澤さんの御働只々感服致して居りますお高さんだのお百合さんだのゝ事拜見してどんなに御嬉しかつた事かと只御察し申上ぐる丈です。今度女學校の先生で雜誌を取つて下さる方があると承りましたから私からも話して見ませう。

○四五名でも纏めて御送り致しませう

神戸　永井せら

會友は四五名募集致しましたが未だ〳〵御約束の數に達しません今少しの時日を御願ひ致し度う御座います四五名の方々は會友になる事を御承知下さいましたが未だ入會申込書を御出し下さいません、今月中に出來る丈集めまして四五名でも纏めて御送り申上る事に致しませういつも後れてすみません。

○心が緩み掛ると「女子青年界」で引締める

水戸　松井かつ

私は體の都合で御座いませうかそれとも無理に勉强致した勢で御座いませうか十二月末から又眼が思はしく御座いませんので學校から歸宅致しまして未だに引續き治療致して居ります、とても生徒として復校する事はもう出來ない事かと考へて居ります、之れも皆神様の深い思召のある事と思ひます、しかし日々感謝して暮す事の出來ます私は實に幸で御座います丁度麥が五寸位延て櫻の蕾が大くなつた頃の樣な樂しい心地で居られます是も眼を病みまして色々悲しい事に逢ひ又上京して受けた勿體ない程の御導による事で御座います弱い心がゆるみかけますと「女子青年界」の爲にみつちりと引しめられます、これから尙一層一心に治療致しまして一日も早く働く事の出來るやうに務めませう。

○惜しい時間を居眠り致しました

仙臺　赤尾はつね

昨日も今日も午前はほんの名計りの雪が降りました午後は靜かです日光が程よく照つて彈からうと思つて居ましたピアノの前で惜しい時間を居眠り致しました。徽章も屆きました私は昨年からのを持つて居り

ましたけれど足が折れたのです、可愛がらなかつたせいでせうか今度のは一層大事に使ひます。先日は河井先生より大變有益なお話を伺ひました、私はたゞ感謝致して居ります「岐路」のあの御話が前夜御伺ひしたのより私の身に適切に感じました、まあ私程これもあれもと一時にどや〳〵するものいゝえしたいもの丶出で來る人は無いかも知れません氣をつけて數へて戴いた樣に祈つて選びませう母は先生に夜御目に懸つて大變喜んで居ます晝ならばもつとよかつたと申して居ました長く御禮を申上る折の無かつた事を惜んで居ります、先生が學校で御話しになつた青年會の事業まあなんて嬉しかつたでせう私は夜一年の人澤山と歸りましたそしたら青年會の意味が解ったつて大變喜んでいらつしやいました、大きな私共さへ何だかよく解らないで居たので喜んだ位ですもの少さいまだ學校に入りたての人は尤もと思はれまして御禮申上ます、又早く夏が來て修養會の開かれるのを心待に待つて居ります神樣は私を確に行ける樣にして下さると思ひます、そして又一年間を美しく暮す材料を御與へ下さる事を思ふて祈つて居ります。

○何の爲に懲め給ふ神樣の御怒てせう

鹿兒島　青山英子

御察しの通り今度の慘狀は到底筆に書き記す事は出來ません十二日夜の大地震に驚き命から〳〵山の中に避難致しました途中で娘達に逢ひました時の嬉しさ皆して神樣に感謝致しました、一夜は戸板の上に一夜は馬小屋に明しましたドン〳〵パチ〳〵ゴウ〳〵其音の物凄さ百雷の落ちますと申す形容は慥に此の夜の有樣であらうと存じました。今より考へますと隨分可笑な事計りで御座いますが其時は皆夢中で居りましたのです。十三日には恐いもの見たさと寒さに堪えられませんから箔がへを取りに歸宅致しましたが市中はみな空虛で辻々に兵士が守つて居るのを見ました時は實に言ひ知れぬ感じが致しました皆火の用心を致したと見えまして一軒の火事もありませんでしたのは不幸中の幸で御座いました、一度は家へ歸りましたが海嘯が來ると申しますので又山の奥へ逃れましたそして晝夜櫻島を眺めて如何なる事かと毎日々々心配致して居りましたが追々靜かになりましたので十八日に歸宅致しました、壁は破れ障子は倒れ部屋は火山灰で何から何まで灰神樂を立てゝ居りました、親類中一人の怪我人もなく御互に無事を祝しましたが私は其夜から發熱して御醫者樣の御厄介になりました娘が學校を休んで看病して呉れましたので早くよくなりまし　昨日から起きて居りますが只今は娘が休んで居ります、逃げますよりも床の中に居る方が苦しう御座いました、鹿兒島の市中は灰を被つて雨が降りましても中々取れません風が吹きますと灰神樂で目も口も開けて居られません皆頭から布を被つて歩きます。市民か豫想致しましたやうな慘害は參りませんでまあ〳〵仕合で御座いました何の爲に懲め給ふ神樣の御怒りで御座いませうか御敎訓は澤山に學ぶ事が出來まして嬉しう御座います好き經驗を致しました凡ての事を感謝致します神樣は私共を守つて下さいました、それは凡ての食料品を二三日前に色々買ひためました爲に一時は市中に物賣る家もありませんでしたが私共は不自由を覺えませんでした荷物なども不思議に前日氣になりまして片附て置きました爲に私が居りませんでも一纏めに山の中に運ぶ事が出來まして只御禮申上て居ります右の樣な譯でほんの少し計りですみましたから何卒御安心下さいませ。

○私の蜃氣樓は消え去りました

札幌　横澤つぎ

昨日水曜日で聖書の組へ行きました處が生徒は三十二人來て居りました歸りに生徒から水曜日が樂しみとの事を聞き斯る生徒を捨てられぬと思ひいよ〳〵留任の決心を堅くして歸り夜父に手紙を書きました何卒神の御心にかなふ樣に成る樣どうか私が此時に當り目が暗まず神を愛する「信仰の目鏡」を以て神をすつかり知り神の心を見る事が出來る樣に祈つて頂きたいと思ふのです、外國よりの先生方達もさうである母國を後にして數年間或は一生涯異國にて働かるゝことを思ひ最後にキリストを思ひました、キリストの十字架です。それを考へれば世に一つとして苦しいものはありません。私の如き信仰のなき一寸した事が起るとすぐ迷ふ樣な者には十字架に思へました、上京したら勿論私は幸です先生方や友人等と父弟共々に暮されませう然し私はそれが眞の幸福かといふ事をあやしみます當地に居たら確かに眞の幸福といふものを感ぜられるであらうと思ひます、話す人も無く共に唱ふ人もなき事は一入淋しき事と思ひますがこの淋しさを通じて神と一入深く成り度いと思ひます、高尙なる淋しさにしたいと思ひます、一時は上京して勉强して何んと色々理想をもちましたが今は全く私の蜃氣樓は消え去りましたから今度は城を巖の上に造りたいと思ひます。

○指導者にてもあり刺激者にても有之候

朝鮮　和田花子

一昨日「女子靑年界」を拜見致し一入英學塾時代を忍び御なつかしさに堪えず候御執筆遊ばす方又御通信遊ばす方々は舊師舊友などにてたゞ御懷しく再び前生活に歸りたる心地致し嬉しさ譬へ方も無之候、順境の內にありて平和の日を暮し居候身には兎角奮發心なく克己心鈍り唯々其日を空しく過す事のみ多く御耻かしく御座候。はや當地に參りて六度目の新春を迎へ候へども振返り見れば何の跡かたもなく寧ろ精神上退歩の跡あり〳〵と現はれ候て實に後悔の涙つきず候此年こそ何か意味ある一年を過し度くとは新年早々の祈にて御座候幸子供も至極健かにて感謝すべき事のみ多く候へば如何かして此年は靈的犧牲を味ひ度と大なる望に滿され居候就ては「女子靑年界」は指導者にてもあり又刺激者にても候へば是非引續き拜見致し度候まゝ何卒御送附下され度只今一年分代金小爲替にて御送り申上候出來るだけ知人の方にも此雜誌御紹介申し度と存じ居候。

○「手にて思を」といふ題で話されました

米國　渡邊百合

先日學校の靑年會の發起であの啞で盲人のヘレン、ケラー孃に話を頼みました「手にて思を」と云ふ題で話されました、始めミス、ケラーの先生がケラー孃の履歴に就て又如何にして字を覺えたか又如何して話される樣になつたかと委敷説明の後にミス、ケラーが話されました。淡紅の着物をつけ空色の大きな開いた目講壇の椅子に片手を置き乍ら立たれた美しさ姿を見た時には何とも云へぬ同情が胸に滿ちました話し始められた時には實は驚きました丁度人形を機械で口を動かせて話させる樣で異樣の感がしました一度でも人の話すのを見た事もなく又人の聲を聞いた事もなくて話されると思へば實に不思議なほどでした又完全な眼や耳を持ち自由に話せる私共が良い事に使はなくては實に濟まぬなど思ひました、お話の後でケラー孃の先生が聽衆に何でも尋ねる樣にと云はれて色々な問題が出ましたケラー孃は色々の事に興味を持たれて居ると聞き或人は「メキシコの問題」に就ての意見を問はれました又婦人參政權の質問もありました。ケラー孃は聞えま

せんが其間を先生が繰返して云はれるのです。其時ケラー孃は指を先生の口と咽において先生が云ひ終ると直ぐにその云はれし儘を云はれ又答へられます、實に驚く程でした。平生先生との會話は手に字を書かれてするのです。大學で講師の講義も皆さうして解つたとの事。タイプライターでどん〳〵手紙は書かれるさうです。無論熱心な信者ですから何時でも幸福ですと申されました實に色々彼女より教訓を得ました。

○萬國基督教女子青年會負擔金領收（前報告後の分）

金貳圓	德島女子青年會
金參圓	宮城女學校青年會
金壹圓四錢	共立女學校青年會
金五拾錢	宇都宮クリスチャン女學校青年會
金參圓五拾錢	同志社女學校青年會

小計

總計金五十二圓五十八錢

○會友申込（本部報告）

山家　秀子	笹尾　やす	土井　やえ	中村ならえ
佐野　あや	シュネーダー夫人	三輪　靜江	谷井三代子
渡邊　すみ	野副　とよ	村　つる	松永　其枝
杉　田　縫	今井　きぬ	上村いさを	山本みさを
河原	今泉　つや	吉田　梅子	藤田　久枝
中松　やす	瀧　野　廣		

○會友會費領收

金壹圓	山家秀子	金壹圓	笹尾やす
金壹圓	佐野あや	金壹圓	シュネーダ夫人
金五拾錢	渡邊すみ	金壹圓	野副とよ
金壹圓	杉田縫子	金壹圓	今井きぬ
金壹圓	本間夙子	金壹圓	今泉つや
金貳圓	湯田キミノ	金壹圓	土井やえ
金壹圓	河原邦子	金壹圓	メードホフ
金貳圓	ミセス、アキスリング	金貳圓五拾錢	ミセス、フライ
金五圓	ミセス、ジョーゲンセン	金壹圓	河井道子

○雑誌「女子青年界」代金領收

金壹圓　藤田とき　　金壹圓四拾錢　紅松雄二

金七拾錢宛

前田ゆきよ	柳田　しま	庄原　ひで	長尾　咲子	澤口　つや
ドレパー	寺内　ぶん	ボーマン	五味　きく	藤田　まさ
內海　きん	上野　とし	菊地　幸代	高橋　久與	進藤　千代
浦　四　三	小山　八枝	渡邊　和	船尾　千代	伊藤　千代
長　非	望　月	井上　友子	岩　崎	加　賀　美
木　村	加　藤	中　村	上　野	野　口
田畑　幸子	廣　瀨	佐藤　昌子	秋田　文子	雨　森
宮脇みどり	窪田　きよ	鈴木　孝子	小島　のぶ	本多　春美
伊藤　みる	佐久間マキヱ	太田　花子	北川　榮苗	上島やえの
石川　きみ	辰野　ふゆ	石澤　ちや	小　西　貞	佐藤　よし
	高井いさみ	戸　村　操	大川　きく	鳴神　ふさ

吉井 きん　佐野 やえ　廣井 つる　貴山富士代　木澤 かつ
藤波 あい　三好 侍子　鶴 野　玉置 いつ　渡邊 たゞ
近 藤　上田 初枝

金參圓七拾壹錢　共立女學校青年會
金壹圓四拾錢　山下 千代
金壹圓　遠 藤
金四拾錢　富士 清野
金壹圓貳拾錢　ノードホッフ
金參拾五錢　杉浦 止未
金參拾五錢　中山 ひで

金貳拾八錢　横田 金熊
金貳拾壹錢　三浦のぶえ
金五拾錢　石坂 みち
金拾五錢　秋山 まき
金參拾五錢　松尾 きく
金參拾五錢　吉田 よし
金參拾五錢　相原 さだ

National Committee

Headquarters. 12Tamachi Sanchome, Ushigome, Tokyo
Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee
Miss Matsu Okonogi,
Editor "Joshi Seinen Kai"

Resident Members	Non-Resident Member
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries
Miss Michi Kawai, Nationa
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, on Furlough
Miss G. R. Watney, Acting General, Tokyo
Miss Mary Page, Acting Associate, Tokyo
Miss Hisa Kuno, General, Yokohama

部數	定價（郵共）	海外
一部	金七錢	金十一錢
一年分	金七拾錢	金壹圓廿四錢

廣告		
一頁	金六圓	
半段	金貳圓	
半頁	金三圓五拾錢	
一行	金貳拾錢	

大正三年二月廿五日印刷納本
大正三年三月一日發行

發行所　京市牛込區田町三丁目十二番地　日本基督教女子青年會
編輯兼發行人　東京市牛込區田町三丁目十二番地　河井道子
印刷人　東京市芝區櫻田和泉町七番地　鈴木吉次郎
印刷所　東京市芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事左の事項を奬勵す

一、青年女子の間に基督教的智識を普及し彼等を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

一、青年女子の靈的生命を涵養し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

一、青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

一、基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を賛助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

一、會友の種類及會費は左の如し

通常會友　年　金壹圓　　維持會友　年　金貳圓以上

一、各會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

一、會友たらんと欲する者は本會の本部に申出づべし

事業一班

一、事務　支部を督勵し全國に本會主義の普及を勉む

一、巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方の巡廻視察をなさしめ本會の發展を圖る

一、出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

一、機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

一、紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

一、寄宿舍　東京市内に青年女子の爲め監督寄宿舍の設備あり將來他の都市にも設立せん事を期す

一、宿泊所　外國婦人の要求に應じて東京赤坂區檜町十番地に宿泊所を設け併て日本の眞相を紹介す

一、夏季修養會　毎年夏季に於て山水明媚の勝地に集會を開きて專ら婦女子の修養を圖る

基督教女子青年會本支部及寄宿舍位置

本部

日本基督教女子青年會本部	東京市牛込區田町三丁目十二番地

支部

東京基督教女子青年會	東京市麴町區三番町四十一
廣島女學校青年會	廣島市上流川町
同志社女學校青年會	京都市上京區今出川通
プール女學校青年會	大阪市西區川口町十二
ウヰルミナ女學校青年會	大阪市東區玉造
札幌女子青年會	北海道札幌區北四條北星女學校内
宮城女學校青年會	仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會	宇津宮市二條町七十二
フヱリス女學校青年會	横濱市山手町一七八
共立女學校青年會	横濱市山手町二一二
女子英學塾青年會	東京市麴町區五番町十六
女子學院青年會	東京市麴町區上二番町三三
青山女學院青年會	東京市青山南町七丁目一
青山女子手藝學校青年會	東京市青山南町七丁目一
女子傳道學校青年會	東京市小石川區指ケ谷町八四
神戸女學院青年會	神戸市山本通四丁目
金城女學校青年會	名古屋市東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會	岩手縣盛岡内丸タピング方
德島女子青年會	德島縣德島市富田浦仲町ミスリツン方
横濱女子青年會	横濱市本町五十一

寄宿舍

第一寄宿舍	東京市牛込區納戸町四十五番地
第二寄宿舍	東京市小石川區水道町（安藤坂）
外國婦人宿泊所	東京市赤坂區檜町（乃木坂）十番地